

インドネシア、ラマレラ捕鯨と漁の現在

— 2010年～2013年漁獲統計と分析 —

江上幹幸

TOMOKO EGAMI

小島曠太郎

KOUTARO KOJIMA

はじめに

本稿は2010年5月から2013年8月までのラマレラ村における調査で得られた捕鯨と漁獲の統計を提示し、その詳細を吟味し分析することでラマレラ捕鯨と漁の変化、現在の様相を明らかにすることを目的とする。文化変容の研究は継続的におこなうことでその成果が明らかになると考えており、その意味で本稿は筆者の先行研究を継続した研究と位置づけることができる。

先行研究の内容については以下をご参照していただきたい。ラマレラ村と捕鯨の概要および1994年～2009年の捕鯨記録詳細については『沖縄国際大学社会文化研究』12(1)巻(江上・小島2010)、2010年前半までの捕鯨と漁獲記録および1990年代のイトマキエイ類の漁獲については『沖縄国際大学社会文化研究』12(2)巻(江上・小島2011)で報告を行っている。

以下では、1章でラマレラ捕鯨文化と研究の概要に触れ、そのあと、漁獲統計の提示については2010年、2011年、2012年、2013年の4章を立てて各年における漁獲統計を示し、それぞれの年の漁獲について検討を加える。

続く6章では、4年間における漁の変化を見るためには動力船操業の各年の実態を把握することが欠かせないことから、動力船別に4年間の統計一覧を加える。特にその中では、通常の操業のほかに、ブレダンと組んでのマッコウクジラ捕鯨参加が重要な意味を持つことから、動力船と捕鯨参加の詳細データを検討する。7章ではこれまでの統計データを検討して考察したあと、最後に今後の課題と展望を述べたい。

1. ラマレラ捕鯨文化と研究の概要

1.1 研究の概要

ラマレラ村の捕鯨に関する人類学的研究ではR. バーンズが詳細な民族誌を公刊している(Barnes 1996)。筆者は1994年よりラマレラ捕鯨文化の研究を継続し、蓄積してきた資料から、捕鯨法・分配法・

表1 年表 ラマレラ村関連年表

年	マッコウクジラ捕獲頭数	ラマレラ村の漁に関する出来事	レンバタ県とラマレラ村の出来事	インドネシア国内の出来事
1999	6頭	11-12月 動力船3隻でゴンドウクジラを21頭捕獲 「 動力船結漁 」	10月15日 レンバタ県発足 * ラマレラ上村出身のビテル・ケラフ氏が県知事代行	10月 ワヒド新政権発足 * 地方行政法および中央・地方財政均衡法の法律制定 ラマレラ上村出身ソニー・ケラフ氏が環境大臣就任
2000	10頭	1月～3月 動力船3隻でゴンドウクジラを26頭捕獲	地方自治政府によるインフラ整備 (ラマレラ上村まで自動車道路工事) 5月6日 上村と下村を繋ぐ伝統的階段が 道路拡張工事で崩壊	
2001	35頭	1995年以來の豊漁 4月 動力船10隻に増加「 動力船結漁 」へ移行 4月29日 動力船の捕鯨参加が村の掟として承認され 「 動力船参加式ブレダン捕鯨 」導入	8月4日 県知事にアンドレアス氏就任 ビテル・ケラフ氏敗れる	8月 メガワティ新政権発足
2002	28頭	5月8日 村史上初、ブレダン「ジャワテナ」船外機を 搭載して初出漁「 動力ブレダン 」導入	8月25日 県都レウォレバ町からラマレラ上村まで トラックバス路線開通	10月12日 バリ島爆弾テロ事件
2003	18頭	漁期の不漁が顕著 動力船とベアを組むブレダンがマッコウクジラ捕鯨で 優位にたつ	定期船航路の廃止、陸路での輸送に移行 往復定期トラックバス2台に増加 8月20日 ウラウンドニ郡発足	
2004	14頭	5月 動力船21隻に増加 「 動力船結漁 」普及 5月 ブレダン出漁が減少 5月 「動力ブレダン」船外機搭載用木枠が固定式に 5月 3頭捕獲以後捕獲なく漁期の不漁	3月30日 レウォレバ町中央市場全焼 ラマレラ村までの往復定期トラックバス4台に増加	10月21日 ユドヨノ新政権発足 * 地方行政法、中央・地方財政均衡法が改正 12月26日 スマトラ島沖大地震津波
2005	5頭	5月 ブレダンの出漁激減 7月12日 動力船4隻でザトウクジラ確保 ラマレラ史上初 8月11日 15ヶ月ぶりにクジラ捕獲	1月 石油燃料不足による高騰 県都地域で携帯電話が利用可能になる 3月 レンバタ島干ばつで凶作になる 6月3日 国営電力会社による 電力供給 ラマレラ村に初めて電気が入る	6月から地方首長直接選挙が開始 10月21日 石油燃料126.6%大幅値上げ
2006	4頭	「動力ブレダン」は4隻に増加 漁期に捕獲なし 1989年以來の深刻な不漁	6月2日 直接首長選挙 でアンドレアス氏 レンバタ県知事再選(2011年まで) 8月26日 県政府が金・銅鉱床の探鉱を許可 12月 ラマレラ村で 携帯電話 が利用可能に	5月27日 ジャワ島中部地震死者約6,000人
2007	43頭	1月28日 初の日曜日捕鯨 5月2日 ラマレラ史上最大18mの白い巨鯨捕獲 36年ぶりの大漁 「 動力船参加式ブレダン捕鯨 」普及	アメリカの環境団体Photovoicesが村民にデジタルカメラ 50台を6ヶ月間貸与 写真展後ラマレラ村の記録保存のプログラム開始 (WWF、フォード基金、ナショナルジオグラフィック共催) 4月30日 WWFインドネシアが「シロール 諸島 海域環境保護船「コテクラマ」号の進水式 7月 ラマレラに水産高校開校 11月20日 Photovoicesがラマレラで村にて写真展開催	3月6日 西スマトラ地震死者73人以上 NTT州知事選挙 フランス州知事2007～2012
2008	34頭	動力船26隻に増加、動力ブレダン8隻に増加 捕鯨は「バレオ捕鯨」へ移行	ラマレラ村までの往復定期トラックバス 6台に増加	1月27日 鳥インフルエンザ感染死者100人に 5月24日 石油燃料平均28.7%値上げ
2009	5頭	3月 地方政府網漁船2隻を村に援助 4月 夜間操業「 動力船流し網漁 」導入 8月 「動力船流し網漁」本格化 ブレダンは「 バレオ捕鯨 」で稼働	5月14日 マナド国際海洋会議にて「サウ海海洋保護」 制定 レンバタ島海域は除外される 7月 ラマレラ沿岸で他地域船による爆弾漁が活発化 10月29-30日 第1回「Festival Baleo」を村で開催	5月11日 マナドで国際海洋会議開催 7月8日 直接大統領選挙 10月20日 第二次ユドヨノ政権発足
2010	22頭	5月 夜間操業「動力船流し網漁」本格化 8月 一週間でマッコウクジラ13頭の多頭数捕獲	11月29日 ラマレラ村男女106名が伝統捕鯨保護を 県議 会に訴える直接行動	10月26日 ジャワ島ムラピ山噴火死者200名以上
2011	14頭	5月 操業ブレダン7隻(4隻は5月中止)	5月19日 レンバタ県知事選挙 6月 Eliaser Yentji Sunur 新知事就任 9月8日 ラマレラカトリック宣教125周年記念式典	
2012	3頭	2月29日 捕鯨時SKT船のG.クラケSLO事故で3月3日 死去 5月 夜間流し網漁は8月解禁に決定 5月 操業ブレダン2隻のみ レバ捕鯨の終焉 クジラ豊漁と深刻な不漁の差が顕著になる	レウォレバ-ラマレラ道路の大規模拡張工事 12月 ウラウンドニ市場に販売市場施設開設	
2013	18頭	2月5日 捕鯨時DT船のY.スガジSLO事故右足首切断 5月6日 3年ぶりの漁期開けにクジラの捕獲 7月13日 捕鯨時BT船のY.クプロTFO事故右肋骨骨折 8月15日 動力船ペロ消失事故 シャチ捕獲時に 転覆し消失、漁師12人は泳いで上陸し無事生還	5月 ラマレラ村に通信基地局タワー完成 インターネット環境整備され7月通債開始 6月23日 観光・創造経済大臣がラマレラを訪問 10月27日 ラマレラ村に 24時間電力供給	5月23日 NTT州知事選挙 7月17日 フランス州知事2期目～2018 6月22日 石油燃料 ガソリン44%値上げ 8月 国家行事 セイル・コムド開催

表2 船小屋での船配置表

船種	J	J	J	P	J	J	J	P	J	P	P	P	J	P	J	J	P	P	P	J	P	P	P	J	P	P	P	J	P	P	J	J	J	P	J	J	J	P	J	P	J	P	J	J						
NO.	29	28	27	26	20	25	24	23	22	19	21	18	17	16	15	20	15	14	18	18	13	12	11	10	9	17	8	7	6	16	15	14	5	13	12	11	10	9	4	8	7	6	5	3	4	2	3	1	2	1
船名	TITE HEVA	DOFIN	BADAH GOLE ILÉ	JULIANA	Java Tenā	TRI MONAS	PICEST	LUSI	SARDILES	Kebako Pukā	FELMINA	Kelulus	Kena Pukā	Sili Tenā	FRANS	Dolu Tenā	Horo Tenā	ANA ABANG	ILE LODO	Sage Tenā	Holo Sapā	Teti Heri	Kepo Pakor	Nara Tenā	KOLOFO	Bui Pukā	Sika Tenā	Demo Sapā	KAMBAL	KOPPO LERE	DUA KEMBAR	Beli Sapā	ARA JATI	SABAT	SUKA MAMA	BERO	FUNO PITO	Manula Belolo	ARNOL 2	ARNOL 1	FILANA	TA LERE LERE	Peraso Sapā	KAKA ARI	Baka Tenā	RONI	Muko Tenā	FATO KELESAR	ISAFETY	
村名	ラマレラ下村 所属																	ラマレラ上村 所属																																

J:動力船 P:プレダン (東から西)

造船技術・物々交換経済・それらに伴う儀礼など総合的に把握して、歴史的に継承されてきた伝統捕鯨文化の定義をおこなってきた。その中で、21世紀に入りインドネシア政治・経済・社会の発展が地方の近代化を促し、ことに2007年以降は当該地域の文化に大きな影響を与えている事実を解明している(江上・小島 2010,2012;Egami and Kojima2013)。

ここに1999年から2013年までの漁の変化と社会のおもな出来事を年表(表1)に示したが、ことに2009年以降の社会の急速な変化とともに、ラマレラの漁法にも変化が見られ、伝統捕鯨文化の一部が失われてしまう可能性が見え始めてきた。世界で唯一おこなわれているマッコウクジラ捕鯨は人間とクジラとの関わりを知る上で極めて貴重な「人類共通の生きている文化遺産」と捉えることができることから、近代化による捕鯨文化変容の過程を継続的に記録保存し分析することは学術的にも重要な研究課題であると考えている。

1・2 漁船と漁法

ラマレラ村は東ヌサトゥンガラ州レンバタ県ウランドニ郡に属し、行政上ではラマレラ上村とラマレラ下村の二つの村からなり、総称してラマレラ村と呼称している(小島・江上 1999)。レンバタ県の2009年人口国勢調査(BPS 2009)によると、上村は240世帯868人、下村は212世帯818人、合計452世帯1,686人が暮らしている。

そのうち316世帯(70%)の漁業就労者が生業のために使用している船には、伝統帆船のプレダン(Peledang)、動力船(村ではサパSpāあるいはジョンソンJohnsonと呼称する)、小舟(Spā)の3種類がある。2013年現在で存在するプレダンは20隻、動力船は29隻を数える(表2)。

現在の漁は、捕鯨を含め船種ならびに漁獲対象を異にする操業が行われており、簡単に説明を加える。それぞれの操業形態について筆者は以下の呼称を付している。本節での《 》内は筆者が与えた呼称を示し、本節以下では《 》は省略する。

伝統帆船のプレダンは手投げ鉆漁のみをおこなう。

- 1) 《プレダン捕鯨》マッコウクジラを対象とした鉆漁。

プレダン捕鯨は2001年に動力船がプレダンを曳航してクジラを追尾する「動力船参加式プレ

表3 マッコウクジラ全捕獲年月日 1994～2013

No.	Month	Day	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	回数/計	頭数/計	
1	January	4	2									2											2	4	
2		5								1		3												2	4
3		6				4						1												2	5
4		10													1									1	1
5		11		1		2																		2	3
6		12										2												1	2
7		13												1										1	1
8		14												1										1	1
9		16										1												1	1
10		23								2	3													2	5
11		25										2						2						2	4
12		27											5											1	5
13		28															1							1	19
14	February	2											4										1	4	
15		3																		1				1	1
16		5																				4		1	4
17		12				3																		1	3
18		15														1								1	1
19		17																	2					1	2
20		18																1						1	1
21		19											1											1	1
22		24												1										1	2
23		27			2																			1	3
24		29			3																		1	11	27
25	March	2						1															1	1	
26		3	1																					1	1
27		4						1																1	1
28		5									1													1	1
29		8										1												1	1
30		10	2																					1	2
31		12				2													2					2	4
32		16																					1	1	1
33		18														1								1	1
34		20														1								1	1
35		21		4		1																		2	5
36		25										1												1	1
37		28								2														1	2
38	29			5																			1	16	26
39	April	2										1											1	1	
40		5										1												1	1
41		6					2																	1	2
42		9								3														1	3
43		10			5																			1	5
44		11									1													1	1
45		22						2																1	2
46		23		1																				1	1
47		28			2																			1	2
48		30						2																1	10
49	May	2										3				3							2	6	
50		3								2														1	2
51		6				2																1		2	3
52		8							3		1													2	4
53		10																4						1	4
54		11							2															1	2
55		14		1									1											2	2
56		15			2			1																2	3
57		19						4	1															2	5
58		20				7																		1	7
59		22						1												2				2	3
60		23		1			1											8						3	10
61		24											2											1	2
62		25						5																1	5
63		28															3							1	3
64		29				1																		1	1
65		30									1													1	26
66	June	1																	2				1	2	
67		4				7																		1	7
68		7			3																		2	2	5
69		8								2	1												1	3	4

表3 マッコウクジラ全捕獲年月日 1994～2013

No.	Month	Day	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	回数/計	頭数/計
70		9																	2				1	2
71		10															5						1	5
72		11	2					1															2	3
73		12																		1			1	1
74		16		1																			1	1
75		18			2																		1	2
76		19		2																			1	2
77		23		1																			1	1
78		24										1											1	1
79		27					3			1						2							3	6
80		30					5			2													2	7
																							22	49
81	July	2									1												1	1
82		3					1																1	1
83		4																			5		1	5
84		8						1										3					2	4
85		10		2					1														2	3
86		11								1													1	1
87		13														3						1	2	4
88		19		2																			1	2
89		22									3												1	3
90		23															2						1	2
91		24														5							1	5
92		26														3							1	3
93		27														1							1	1
94		28																		1			1	1
95		29									4												1	4
96		31															1						1	1
																							19	41
97	August	2		2				1		2							1						4	6
98		4								1													1	1
99		8							3														1	3
100		10		1																			1	1
101		11											2										1	2
102		13																	2				1	2
103		14								1	3							5					3	9
104		16														6							1	6
105		19																6					1	6
106		20								3													1	3
107		21						1								7							2	8
108		25		1																3			2	4
109		30														2							1	2
110		31																			1		1	1
																							21	54
111	September	6															3						1	3
112		10																			1		1	1
113		14					1																1	1
114		21								1								5					2	6
115		29								1													1	1
																							6	12
116	October	2			1																		1	1
117		4																		1			1	1
118		18																			2		1	2
119		31		1																			1	1
																							4	5
120	November	1			1																		1	1
121		9																		6			1	6
122		15								3													1	3
123		17														2							1	2
124		22									2												1	2
125		26								1	4												2	5
126		27								1													1	1
127		28										1											1	1
																							9	21
128	December	1					1																1	1
129		6			1																		1	1
130		8														3							1	3
131		10										1											1	1
132		12					3																1	3
133		17																			2		1	2
134		19																		1			1	1
135		20												3									2	8
136		24			5												4						1	4
137		27								1													1	1
138		28								1													1	1
139		29								2													1	1
																							13	28
捕獲回数			7	18	7	8	13	6	5	22	14	10	8	2	4	14	10	2	8	7	2	9	176	
捕獲頭数			10	40	18	22	31	6	10	35	28	18	14	5	4	43	34	5	22	14	3	18		380

ダン捕鯨」を導入した。2008年以降はプレダンの稼働隻数が減少し、早朝から操業する《レファ出漁》から主にバレオ時に緊急出漁して捕鯨をする《バレオ捕鯨》に移行した。調査開始以来本年までの20年間に捕獲したマッコウクジラの総頭数は380頭で、これを176回の捕鯨回数で捕獲している（表3）。これを年平均に換算した捕獲状況は8.8回の捕鯨回数に19頭となり、捕鯨回数1回あたりの捕獲頭数は2.159頭である。

- 2) 《プレダン銛漁》マッコウクジラ以外の鯨類とイトマキエイ類などの魚類を対象とした銛漁。
プレダン銛漁では2002年に船外機を搭載する「動力プレダン」を導入したが2012年にはプレダンの《レファ出漁》は終焉を迎えつつある。
一方、船外機搭載の動力船は銛漁と網漁をおこなう。
- 3) 《動力船銛漁》マッコウクジラ以外の小型鯨類とイトマキエイ類などの魚類を対象とした銛漁。
動力船銛漁は1隻に5~6人が乗船し、早朝から午後までの昼間に出漁する《レファ出漁》で、主に小型鯨類・イルカ類とイトマキエイ類を漁獲対象としている。
- 4) 《動力船網漁》イトマキエイ類を主要漁獲対象にし、その他の魚類・小型鯨類も漁獲する夜間操業の流し網漁。

動力船網漁は2009年4月から新たに導入され操業を始めた。これには網目5インチで大型の網が刺網漁の一種である流し網漁として導入され、夜間操業で主にイトマキエイ類を漁獲対象としている。動力船1隻に3~4人が乗り組んで日没前の17時ごろ出漁し、各船が東西いづれかのそれぞれの漁場へ向かう。

漁場では各船それぞれが一ヵ統の流し刺網を下ろして沖停泊し、深夜から未明にかけて通常は一回の網揚げ操業をおこなう。帰漁は早朝6時頃で水揚げした漁獲は浜で処理して分配される。これは従来小舟でおこなっていた夜間流し網漁の網具の規模を大きくした漁で、漁獲効率がよく、現在では昼間銛漁と並んではラマレラの主要漁法になっている。ラマレラ社会にとっては、動力船夜間網漁導入以前とそれ以降とに明確に時代を画することができる。

統計資料の不足から本稿では触れていないが、そのほかに小舟による小舟網漁がある。これは小舟の所有者が個人でおこなう漁であり、2008年には62艘があり、多くの若者たちが操業している。小舟による網漁は昼間操業で網目1.5インチのナイロン網を用いて主にトビウオを対象とした漁（小舟トビウオ流し網漁）と、夜間操業で網目5インチの大型網を用いて主にイトマキエイ類を対象とした漁（小舟夜間流し網漁）が行われている。どちらも1人ないし2人で操業する。こうした個人による零細な漁獲記録は残念ながら集計されていないが、家族の家計にとって重要な漁獲となっている。

また、前出した《レファ出漁》《バレオ捕鯨》は漁期および出漁形態の区別を示している。漁期 (*lefa*) レファについては、ラマレラで漁が正式に解禁されるのは5月1日からおよそ9月末・10月までであり、漁期における早朝からの操業を《レファ出漁》と称している。年をまたいで翌年4月までが

表4 ラメララの鯨漁・網漁における獲物名(捕獲しないナガスクジラ科を含む)

目名	科名	属名	種名	ラメララ語	英語	学名	インドネシア語	備考	
哺乳綱 クジラ目	マッコウクジラ	マッコウクジラ	マッコウクジラ	<i>ketekelama</i>	sperm whale	<i>Physeter macrocephalus</i>	ikan paus sperma		
	コマッコウ	コマッコウ	オガワコマッコウ	<i>fekekumu</i>	dwarf sperm whale	<i>Kogia sima</i>	lumba-lumba		
	アカボウクジラ	アカボウクジラ	アカボウクジラ	<i>ika mesa</i>	cuvier's beaked whale	<i>Ziphius cavirostris</i>	lumba-lumba		
	マイルカ	シヤチ	シヤチ	<i>suguni</i>	killer whale	<i>Orcinus orca</i>	ikan paus pembunuh		
		ゴンドウクジラ	ゴンドウクジラ	<i>temu belit</i>	short-finned pilot whale	<i>Globicephale macrorhynch</i>	lumba-lumba		
		オキゴンドウ	オキゴンドウ	<i>temu bilif</i>	false killer whale	<i>Psodocera crassidens</i>	lumba-lumba		
		ユメゴンドウ	ユメゴンドウ	<i>temu kebung</i>	pigmy killer whale	<i>Feresa attenuata</i>	lumba-lumba		
		カズハゴンドウ	カズハゴンドウ	<i>temu kebhong</i>	melon-headed whale	<i>Peponocephala electra</i>	lumba-lumba		
		ハナゴンドウ	ハナゴンドウ	<i>temu burif</i>	risso's dolphin	<i>Grampus griseus</i>	lumba-lumba		
		スジイルカ	ハンナガイルカ	<i>temu kirif</i>	spinner dolphin	<i>Stenella longirostris</i>	lumba-lumba		
		スジイルカ	マダライルカ	<i>temu kirif</i>	panropical spotted dolphin	<i>Stenella attenuata</i>	lumba-lumba		
		スジイルカ	スジイルカ	<i>temu blura</i>	striped dolphin	<i>Stenella coeruleoalba</i>	lumba-lumba		
		サラワイルカ	サラワイルカ	<i>temu notong</i>	fraser's dolphin	<i>Lagenodelphis hosei</i>	lumba-lumba		
	ナガスクジラ	ナガスクジラ	ナガスクジラ	<i>kelangaji</i>	bulke whale	<i>Balaenoptera musculus</i>	ikan paus biru	捕獲しない	
		ナガスクジラ	ナガスクジラ	<i>kelaru</i>	sei whale	<i>Balaenoptera borealis</i>	ikan paus	捕獲しない	
		ナガスクジラ	ナガスクジラ	<i>kelaru</i>	bryde's whale	<i>Balaenoptera brydei</i>	ikan paus	捕獲しない	
		ナガスクジラ	ナガスクジラ	<i>kelaru ama</i>	mink whale	<i>Balaenoptera auarostata</i>	ikan paus	捕獲しない	
		ザトウクジラ	ザトウクジラ	<i>kelaru belapor</i>	humpback whale	<i>Megaptera novaeangliae</i>	ikan paus	2005年7月12日 動力能で捕獲	
	軟骨魚綱								
	タンジクザメ目	ジンベエザメ	ジンベエザメ	ジンベエザメ	<i>io kiko</i>	whale shark	<i>Rhincodon typus</i>	hiu bodoh	
	メジロザメ目	シュモクザメ	シュモクザメ	アカシユモクザメ	<i>io naka</i>	scalloped hammerhead shark	<i>Sphyna lewini</i>	hiu martil	
		メジロザメ	イタチザメ	イタチザメ	<i>io sejang</i>	tiger shark	<i>Galeocerdo cuvier</i>	hiu macan	
		オナガザメ	オナガザメ	ニタリ	<i>io lindo</i>	thresher shark	<i>Alopias pelagicus</i>	hiu	
ネズミザメ目	ネズミザメ	アオザメ	アオザメ	<i>io tamu uk</i>	shortfin mako shark	<i>Isurus paucus</i>	hiu		
	ウハザメ	ホホジロザメ	ホホジロザメ	<i>io tamu</i>	great white shark	<i>Carcharodon carcharias</i>	hiu		
	ウハザメ	ウハザメ	ウハザメ	<i>io kehanggu</i>	busking shark	<i>Cetorhinus maximus</i>	hiu		

目名	科名	属名	種名	ラメラ語	英語	学名	インドネシア語	備考	
エイ目	トビエイ	オニトマキエイ	オニトマキエイ・マンタ	<i>hololeung</i>	manta ray	<i>Manta birostris</i>	ikan pari manta	灰色	
		イトマキエイ	イトマキエイの一種	<i>bou</i>	shortfin devil ray	<i>Mobula kuhli</i>	ikan pari	黄色/短鰭	
		イトマキエイ	イトマキエイの一種	<i>moku</i>	whiptail devil ray	<i>Mobula diabolus</i>	ikan pari kecil	黒紫/短鰭	
	アカエイ	カラスエイ	カラスエイ	<i>kejo lobo</i>	bule stingray	<i>Dasyatis violacea</i>	ikan pari daun		
硬骨魚綱 スズキ目	サバ	マグロ	キハダマグロ	<i>serasa rapang</i>	yellowfin tuna	<i>Thunnus albacares</i>	tuna sirip kuning		
		マグロ	ビンナガマグロ	<i>serasa marfing</i>	albacore	<i>Thunnus alalunga</i>	albakora		
		カツオ	カツオ	<i>gus</i>	skipjack	Katsuwonus pelamis	cekalang		
		スマ	スマ	<i>gus</i>	kawakawa	<i>Euthynnus affinis</i>	tongkol		
		ソウダガツオ	ヒラソウダ	<i>gus</i>	frigate tuna	<i>Auxis thazard</i>	tongkol		
		ハガツオ	ハガツオ	<i>gus</i>	stripped bonito	<i>Sarda orientalis</i>	tongkol		
		サワラ	ヨコシマサワラ	<i>tenilo</i>	narrow barred king mackerel	<i>Scomberomorus commerson</i>	tenggiri		
		グルクマ	グルクマ	<i>fers</i>	indian mackerel	<i>Rastrelliger kanagurta</i>	kombong,kumbung		
		カマス	カマス	<i>bololo</i>	barracuda	<i>Sphyraena barracuda</i>	barakuda		
		マガジキ	クロガジキ	<i>fets ama</i>	bule marlin	<i>Makaira mazara</i>	ikan raja		
		シイラ	クロガジキ	<i>fets bera</i>	black marlin	<i>Makaira indica</i>	ikan raja		
		コバンザメ	シイラ	<i>lilitca</i>	donado	<i>Coryphaena hippurus</i>	lemadang		
		クロチカマス	ナガコバン	<i>merell</i>	live sharksucker	<i>Remora palida</i>	ikan meneli		
		トビウオ	アブラソコムツ	<i>ita firo</i>	escolar	<i>Lepidocybium flavobrunneum</i>	ikan babi		
		サヨリ	トビウオ	<i>kemenu</i>	flying fish	<i>Cypselurus agoo agoo</i>	ikan terbang		
		マンボウ	サヨリ	<i>sambo</i>	halibreak	<i>Hyporhamphus sajori</i>	julang-julang		
		ニシン	マンボウ	<i>kebaku</i>	sunfish	<i>Mola mola</i>	mola mola		
		カタクチイワシ	サッパ	<i>teba</i>	japanese sardinella	<i>Sardinella lemuru</i>	lemuru		
					インドアイノコイワシ	<i>uragi fan</i>	anchovy	teri	
		硬骨魚綱 カメ目 ウミガメ上科	アカウミガメ	アカウミガメ	アカウミガメ	<i>kes bura</i>	loggerhead sea turtle	<i>Caretta caretta</i>	penyu tempayang
アオウミガメ	タイマイ		タイマイ	<i>kes mae</i>	hawkbill turtle	<i>Eretmochelys imbricata</i>	penyu sisik		
オサガメ	アオウミガメ		アオウミガメ	<i>kes keduo</i>	green turtle	<i>Chelonia mydas</i>	penyu hijau		
	オサガメ		オサガメ	<i>mobo</i>	leatherback turtle	<i>Dermochelys coriacea</i>	penyu belimbing		
哺乳綱 鯨牛目	ジュゴン	ジュゴン	ジュゴン	<i>jaru</i>	dugong	<i>Dugong dugon</i>	duyung		

休漁期となっているが、休漁期であってもマッコウクジラの回遊が目視された場合に緊急出漁バレオ (*baleo*) がある。そうした出漁を《バレオ出漁》、捕鯨の場合には《バレオ捕鯨》と称している。また、休漁期においてゴンドウクジラ類などの小型鯨類が目視された場合の動力船出漁もあり、漁獲の大きな割合を占めている。そのため本稿の統計には休漁期における動力船銆漁とブレダン捕鯨が含まれている。

1・3 漁獲種

ラマレラ村で漁獲される鯨種および魚種その他の獲物一覧を示す (表 4)。漁獲する獲物は哺乳綱のクジラ目と海牛目、爬虫綱のカメ目、軟骨魚綱のエイ目・テンジクザメ目・メジロザメ目・ネズミザメ目、硬骨魚綱のスズキ目・ダツ目・フグ目・ニシン目と多岐にわたる。

ラマレラ村の主要な獲物は、海上での目視による銆漁という漁法の性格から、すべてにおいて大型の種類が多いことが特徴となっている。そのなかでも、銆漁においてはクジラ目とエイ目、網漁のうち夜間網漁ではエイ目を昼間網漁ではトビウオが対象魚種である。銆漁の対象とならない小型のサバ科が夜間流し網漁による混獲されるおもな魚種となっている。なお、クジラ目のうちでナガスクジラなどのいわゆるヒゲクジラ亜目の捕獲は伝統的慣習法上の禁忌となっている。

1・4 調査期間と統計資料

1・4・1 調査項目

2010年5月の漁期から開始した漁獲統計調査で項目として設定した捕鯨・銆漁・網漁の三形態の漁法それぞれについて、すべての操業・漁獲統計資料を収集して4年間の変化の実態を明らかにした。具体的な統計項目としては以下のデータを4年間に渡り収集し検討した。

- ①ブレダン捕鯨における各船出漁状況とマッコウクジラ捕獲頭数。
- ②ブレダン銆漁の各船の操業日数とマッコウクジラ以外の漁獲。
- ③動力船銆漁における各船操業日数、漁獲種類とその漁獲量およびマッコウクジラ捕鯨参加による出漁時の捕鯨状況。
- ④動力船流し網漁における各船操業日数、漁獲種類とその漁獲量。

1・4・2 調査期間と統計データ

本研究はラマレラ村に滞在して参与観察、聞き取り調査をおこない、データ収集に努めた。調査村滞在期間は各年とも2回に渡り、以下の日程で合計滞在日数は160日である。

2010年：4月27日～5月19日 23日間、8月13日～8月28日 16日間。

2011年：4月25日～5月22日 28日間、9月5日～9月15日 11日間。

2012年：4月28日～5月24日 27日間、8月13日～8月27日 15日間。

2013年：4月25日～5月17日 24日間、8月13日～8月28日 16日間。

本稿では統計資料が重要な位置を占めるため、出所を明確に提示したい。統計資料については毎年5月と8月に調査地において、データ収集協力者に記入依頼してあるデータ帳をもとに、本人ならびに数名の漁業就業者からの情報と照らし合わせて確認して記録した。各データ収集の協力者とデータの出所、表作成者は以下に示す。

表1：メディア情報、文献、参与観察、聞き取りなどをもとに作成した表（江上・小島2010）に一部加筆し著者が作成した。

表2：聞き取り調査をもとに作成した表（江上・小島2011）を一部修正し著者が作成した。

表3：1994年～1998年 Paulus Tapoona 氏、1999年～2009年 Petrus Hidang Belikolong 氏、2010年～2013年 Alfons Menua Bataona と Fransius Boli Bediona 氏の記録したデータと1994年～2013年に参与観察で得たデータをもとに著者が作成した。

表4：参与観察と聞き取り調査をもとにバーンズ氏の著書（Barnes1996）などを参考に作成した表（江上・小島2011）を引用した。

表5・表8・表11・表14・表18：Fransius Boli Bediona 氏と Alfons Menua Bataona 氏の記録したデータを照らし合わせ、Rofinus Sanga Sulaona 氏などから聞き取りで得たデータをもとに著者が作成した。

表6・表7・表7-1・表7-2：Katerina Beto Bataona 氏、Alfons Menua Bataona 氏の記録したデータと参与観察で得たデータをもとに著者が作成した。

表9～表10；表12～表13；表15～表17：Alfons Menua Bataona 氏の記録したデータと聞き取り調査をもとに著者が作成した。

2. 2010年の操業と漁獲統計

本章では2010年の漁獲記録をプレダン捕鯨、プレダン銜漁と動力船銜漁、動力船網漁の操業形態別に詳細に示して検討したい。

まずプレダン捕鯨での出漁状況と捕獲したマッコウクジラの統計を示し（表5）、検討する。次にレファ出漁したプレダン銜漁の操業状況と漁獲統計を示し（表6）検討する。

続いて動力船について昼間操業の動力船銜漁と夜間操業の動力船網漁の操業状況と漁獲統計を一括して動力船ごとに示し（表7）、表末に「マッコウクジラ捕鯨参加」のデータを加えた。特に、動力船漁における年間漁獲の変化を見るために、動力船銜漁の現在の主要対象獲物である小型鯨類2種（コビレゴンドウ、ハシナガイルカ）の動力船ごとの月別捕獲数（表7-1）、動力船網漁の主要対象獲物であるイトマキエイ類3種（ブレラン、ボウ、モク）の動力船ごとの月別漁獲数（表7-2）を示して、

年間の漁獲の動態を検討する。当年は動力船操業については5月から統計を取り始めたため、5月から12月までの統計である。

2・1 プレダン捕鯨

ここでは表5を参照しながら、捕鯨の詳細を述べてみたい。2010年のマッコウクジラ捕獲総数は22頭であり、8回の捕鯨回数に捕獲した。捕鯨回数一回あたりの捕獲頭数は2.75頭となる。捕獲頭数は平均をやや上回る捕獲となった。

年間13回の捕鯨出漁があり、延べ出漁日数は121日で22頭を捕獲し、漁獲努力量（出漁日数）当りの漁獲量（漁獲数）は18.2%である。13回の捕鯨出漁のうち、レファ出漁した2回（うち1回はレファ出漁の後バレオ出漁があり両方のプレダンが捕獲している）で計3頭を捕獲している。バレオ出漁では12回出漁して捕鯨回数は7回で19頭、残る5回は銚を打ち込む捕獲機会がなく捕獲に至らなかった。クジラが捕獲された8回については、延べ隻数58隻で22頭のクジラを捕獲し、漁獲努力量（出漁隻数）当りの漁獲量（漁獲数）は37.9%である。

初漁は3月12日、漁期に入ってから初漁は5月22日であった。月別の捕獲では、漁期（5月～9月）以外に捕獲したクジラは3月と10月の2回で3頭である。残る6回は漁期での捕獲であるが、漁期においても主にバレオ出漁で捕獲されていることが見て取れる。以下、捕鯨出漁の各状況を詳しく見ていきたい。

初漁の3月12日は、稼働している16隻のプレダンのうち11隻がバレオ出漁して全船が捕獲に参加して2頭を捕獲し、捕獲失敗がなかったケースである。漁期に入ってから5月17日は4隻がレファ出漁してクジラを発見し、7隻がバレオ出漁したが捕獲機会がなかった。二日後の19日には5隻がレファ出漁してクジラを発見し、4隻がバレオ出漁したが捕獲機会がなかった。その三日後の22日は12隻がバレオ出漁して、2頭を9隻で捕獲したが、3隻は捕獲失敗している。続いて25日は3隻がレファ出漁してクジラを発見し、8隻がバレオ出漁したが捕獲機会がなかった。

6月に入って、6月1日は4隻がレファ出漁でクジラを発見して全船で1頭を捕獲し、その後6隻がバレオ出漁して全船で1頭を捕獲している。6月9日は2隻のプレダンがレファ出漁でそれぞれ単独で捕鯨したケースで、はるか外洋での捕鯨であったため、目視によるバレオ出漁がなく、漁師たちはクジラが浜に曳鯨されて来るまで捕獲を知らなかったというラマレラでは異例な捕鯨となった。

7月には通鯨がなかったが8月は一週間に13頭捕獲という稀に見る大漁となった。8月10日から大きな群れの回遊が始まり、この大群は成熟雌と仔鯨の繁殖育児群であるため相互の結びつきが強く、複数捕獲の可能性が高くなる。10日は9隻がバレオ出漁したが捕獲機会がなく帰漁した。13日に9隻がバレオ出漁し、うち6隻は3隻ずつそれぞれで2頭を捕獲し、残る3隻は1頭の捕獲を試みたが2隻がクジラに船底を破壊されるダメージを受けたため、銚綱を切ってクジラを逃がし失敗に終わっている。

操業し、延べ出漁日数は59日、延べ漁獲日数は11日で、このうち2隻は漁獲なしである。漁獲はオニイトマキエイ1匹を含むイトマキエイ類5匹、中型のクジラであるコビレゴンドウ1頭を含む小型鯨類6頭、ジンベエザメ3匹、マンボウ2匹、アオザメ1匹、の計17匹(頭)漁獲している。

6月は5隻が操業し、延べ出漁日数は23日、延べ漁獲日数は7日で、このうち1隻は漁獲なしである。漁獲は小型鯨類2頭、カジキ1匹の計3匹(頭)漁獲して24日で操業を終えている。

プレダン鰐漁の主要対象獲物である当年の漁獲は、イトマキエイ類5匹で漁獲総数の25%、小型鯨類8頭で漁獲総数の40%であった。

2・3 動力船鰐漁

ここでは表7を参照して動力船の操業のうち、動力船鰐漁について述べてみたい。2010年現在29隻の船体が存在し、そのうちで稼働している船は22隻である。当年5月から鰐漁で操業した船は11隻で延べ出漁日数157日、延べ漁獲日数は86日であった。操業日あたりの漁獲日は約54.8%となる。マッコウクジラ捕鯨参加を除く全獲物総数は225頭(匹)で、漁獲努力量(出漁日数)当りの漁獲量(漁獲数)は143.3%になる。

主要対象獲物である小型鯨類の総捕獲頭数は、中型のコビレゴンドウ(*TemuBelā*以下ではBと称す)19頭、小型のハシナガイルカ(*TemuKirā*以下ではKと称す)178頭の計197頭であった(表7-1)。小型鯨類についての漁獲努力量(出漁日数)当りの漁獲量(漁獲頭数)は125%で、全漁獲にしめる割合は87.6%になる。以下月別に詳細を見ていきたい。

漁期の始まる5月は5隻が操業して、延べ出漁日数49日で延べ漁獲日数15日であり、獲物の総漁獲数は26頭(匹)であった。主要対象獲物である小型鯨類は16頭(B-3/K-13)であった。6月は6隻が操業して、延べ出漁日数42日で延べ漁獲日数21日であり、獲物の総漁獲数は46頭(匹)であった。主要対象獲物である小型鯨類は41頭(B-5/K-36)であった。

7月は6隻が操業して、延べ出漁日数26日で延べ漁獲日数15日であり、獲物の総漁獲数は29頭(匹)であった。主要対象獲物である小型鯨類は23頭(B-0/K-23)であった。

8月は1隻のみが操業して、出漁日数1日で漁獲日数1日であり、獲物の総漁獲数は13頭(匹)であった。主要対象獲物である小型鯨類は13頭(B-0/K-13)であった。

9月は5隻が操業して、延べ出漁日数11日で延べ漁獲日数11日であり、獲物の総漁獲数は68頭(匹)であった。主要対象獲物である小型鯨類は66頭(B-0/K-66)であった。

漁期の終わる10月は4隻が操業して、延べ出漁日数8日で延べ漁獲日数8日であり、獲物の総漁獲数は28頭(匹)であった。主要対象獲物である小型鯨類は25頭(B-1/K-24)であった。その他に小型のイトマキエイ3匹の漁獲があった。

11月は1隻が1日のみ操業して、オニイトマキエイ1匹の漁獲である。12月は6隻が操業して、延べ出漁日数19日で延べ漁獲日数14日であり、主要対象獲物である小型鯨類は13頭(B-10/K-3)

表7-1 動力船鮫漁小型鯨類 2010

	動力船	コビレ ゴンドウ	ハンナガ イルカ	2010年												捕獲数		合計									
				5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月			12月		temu belā	temu kira					
				TB	TK	TB	TK	TK	TB	TK	TB	TK	TB	TK	TB	TK	TB		TK								
1	SAFETY	temu belā	temu kira																								
2	FATO KELESAR	temu belā	temu kira				4					3	1					1			26	27					
3	RONI	temu belā	temu kira																								
4	KOPO PIGER	temu belā	temu kira																								
5	TA LERE LERE	temu belā	temu kira																								
6	FILANA	temu belā	temu kira					2													2	2					
7	ARNOL 1																										
8	ARNOL 2	temu belā	temu kira			1		7	1					1						1		9	10				
9	FUNO PITO	temu belā	temu kira				2						17		4						9	23	23				
10	BERO	temu belā	temu kira	3		11	3	20	5	13		24					3			9		73	82				
11	SUKA HAMA	temu belā	temu kira																								
12	SABAT	temu belā	temu kira														2			2			2	2			
13	ARA JATI	temu belā	temu kira			2																2	2				
14	DUA KEMBAR	temu belā	temu kira																								
15	KOPPO LERE	temu belā	temu kira																								
16	KANIBAL	temu belā	temu kira						2													2	2				
17	KOLOPO	temu belā	temu kira																								
18	ILE LODO																										
19	ANA ABANG	temu belā	temu kira																								
20	PICES2	temu belā	temu kira																								
21	FELMINA	temu belā	temu kira			1		3	13			14		1			1			1		32	33				
22	SARDILES	temu belā	temu kira																								
23	LUSI	temu belā	temu kira														1			1		1	2				
24	PICES1																										
25	TRI MONAS	temu belā	temu kira																								
26	JULIANA	temu belā	temu kira										8				4			4		8	12				
27	BADAH GOLE ILE	temu belā	temu kira																								
28	GEREKAT LEFO	temu belā	temu kira																								
29	TITE HENA	temu belā	temu kira																								
		temu belā	temu kira	3		5		0		0		13		0		66		1		24		0	10	3	19	178	
		temu belā	合計										19														
		temu kira	合計										178														
			漁獲合計										197														
			各月漁獲合計	16		41		23		13		66		25		0		13								197	

不稼働動力船

表7-2 動力船網漁イトマキエイ類 2010

	動力船 belelā bou moku	2010年												捕獲数 bou moku	合計			
		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	belelā	bou	moku						
1	belelā bou																	
2	belelā bou	4	1	14	2	7								1			27	27
3	FATO KELESAR belelā bou			16													16	17
4	RONI belelā bou			37	2												39	39
5	KOPO PIGER belelā bou																	
6	TA LERE LERE belelā bou			2	10	2	18							2			30	30
7	FILANA belelā bou			3	3	1											7	9
8	ARNOL 1 belelā bou																	
9	ARNOL 2 belelā bou			1	2	2										1	4	5
10	FUNO PITO belelā bou			1		7	1	1								2	9	11
11	BERO belelā bou					10											10	10
12	SUKA HAMA belelā bou																	
13	SABAT belelā bou			9	5	2											16	16
14	ARA JATI belelā bou																	
15	DUA KEMBAR belelā bou			1	3											1	3	3
16	KOPPO LERE belelā bou			16	10	4								1			30	31
17	KANIBAL belelā bou				6	2											8	9
	KOLOPO belelā bou				5	2											7	7

であった。その他にカジキ 1 匹の漁獲があった。

毎年 12 月から 2 月頃にかけてとコビレゴンドウの回遊があり、動力船はブレダンのマッコウクジラ捕鯨におけるバレイオ出漁と同じく、コビレゴンドウの群れを目視してから出漁する。コビレゴンドウ 10 頭ほどでマッコウクジラ 1 頭と同等の体重があるため、休漁期におけるコビレゴンドウ漁獲は重要である。当月は 4 隻で 10 頭を捕獲したが、12 月 31 日にはそのうちの 4 頭を捕獲し操業を終了している。

当年の主な漁獲種の全漁獲にしめる割合を比較すると、ハシナガイルカ 178 頭で 79.1%、コビレゴンドウ 19 頭で 8.4%、イトマキエイ類 20 匹で 8.9%、サメ類 5 匹で 2.2%、硬骨魚類 4 匹 1.8%である。

また、捕鯨出漁における、動力船のブレダン曳航によるマッコウクジラ捕鯨参加は延べ 98 隻あり、22 隻は捕鯨ブレダン曳航、34 隻は捕鯨応援ブレダン曳航で延べ 56 隻がクジラの分配を受けている。残る 42 隻は曳航したブレダンの捕鯨がなく終わっている。

2・4 動力船網漁

ここでは表 7 を参照して動力船の操業のうち、動力船網漁について述べてみたい。稼働している 22 隻で当年 5 月から網漁で操業した船は *ANA ABANG* を除くほぼ全船 21 隻で、延べ出漁日数 364 日、延べ漁獲日数は 203 日であった。操業日あたりの漁獲日は約 55.8% となる。年間総漁獲数は 462 匹(頭)で、漁獲努力量(出漁日数)当りの漁獲量(漁獲数)は 127% である。

主要対象獲物であるイトマキエイ類の年間漁獲数は、大型のオニイトマキエイ(ブレラン *Belelā* 以下では BL と称す) 10 匹、中型のイトマキエイ(ボウ *Bou* 以下では BO と称す) 10 匹、小型のイトマキエイ(モク *Moku* 以下では MO と称す) 308 匹の計 328 匹であった(表 7-2)。イトマキエイ類についての漁獲努力量(出漁日数)当りの漁獲量(漁獲数)は 90.1% で、全漁獲にしめる割合は約 71% である。以下月別に詳細を見ていきたい。

漁期の始まる 5 月は 16 隻が操業して、延べ出漁日数 97 日で延べ漁獲日数 37 日であり、獲物の総漁獲数は 93 匹(頭)であった。そのうち主要対象獲物であるイトマキエイ類の捕獲数は(BL - 2/BO - 2/MO - 67) の計 71 匹であった。

6 月は *SALDILES* 1 隻が操業して、出漁日数 2 日で漁獲日数 1 日であり、主要対象獲物であるイトマキエイ類の漁獲数は、中型のイトマキエイ 1 匹のみである。

7 月は 15 隻が操業して、延べ出漁日数 161 日で延べ漁獲日数 106 日であり、獲物の総漁獲数は 239 匹(頭)であった。主要対象獲物であるイトマキエイ類の漁獲数は(BL - 8/BO - 4/MO - 173) の計 185 匹で大漁であった。

8 月は 15 隻が操業して、出漁日数 60 日で捕獲日数 26 日であり、獲物の総漁獲数は 40 匹(頭)であった。主要対象獲物であるイトマキエイ類の捕獲数は(BL - 0/BO - 1/MO - 15) の計 16 匹であった。

9月は3隻のみが操業して、延べ出漁日数7日で延べ漁獲日数4日であり、獲物の総漁獲数は13匹(頭)であった。主要対象獲物であるイトマキエイ類の漁獲数は(BL-0/BO-0/MO-10)の計10匹であった。

漁期の終わる10月は7隻が操業して、延べ出漁日数37日で延べ漁獲日数29日であり、獲物の総漁獲数は83匹(頭)であった。主要対象獲物であるイトマキエイ類の漁獲数は(BL-0/BO-2/MO-43)の計45匹であった。27日に操業を終了している。

当年の主な漁獲種の全漁獲にしめる割合を比較すると、硬骨魚類では、カジキ30匹、マグロ35匹、マンボウ11匹、その他の漁獲合計79匹で約17.1%になる。サメ類では、ニタリ32匹、イタチザメ2匹、ジンベエザメ1匹の漁獲合計35匹で7.6%になる。小型鯨類はハシナガイルカ23頭で約5%にあたる。

2・5 考察

当年のマッコウクジラ捕鯨は捕獲頭数22頭で、20年間(380頭捕獲)の年平均19頭を上回り、前年の年間捕獲頭数5頭の不漁から一転して豊漁になった。しかしながら、半数以上が8月の多頭数捕獲による捕鯨であり、クジラ群回遊に左右される捕鯨であることがわかる。プレダン鉈漁は積極的に操業した船は5隻に過ぎず、衰退の傾向がみられた。

また当年は動力船操業が盛んになり、殊に2009年漁期から導入した夜間操業の流し網漁が本格化した。延べ出漁日数は鉈漁157日、網漁364日の521日となった(ただし1月から4月までの統計は含まれていない)。漁獲総数は鉈漁225匹(頭)、網漁465匹(頭)で合計690匹(頭)となった。漁獲努力量(出漁日数)当りの漁獲量(漁獲数)は鉈漁約143%、網漁約128%、動力船操業全体では約136%であった。

漁獲を見ると網漁の漁獲効率の良さが際立っている。例えば、ラマレラの漁にとってマッコウクジラに次いで価値の高いイトマキエイ類のうち、小型のイトマキエイはプレダン鉈漁では4匹、動力船鉈漁で10匹であるのに対して網漁では305匹と、比較にならないほどの漁獲を上げている。この漁獲は1990年代のプレダン鉈漁最盛期における漁獲量に匹敵する。今後の動力船操業がどのように推移し変化していくのかを継続して観察する必要がある。

3. 2011年の操業と漁獲統計

本章では2011年の漁獲記録をプレダン捕鯨、プレダン鉈漁と動力船鉈漁、動力船網漁の操業形態別に詳細に示して考察したい。

まずプレダン捕鯨での出漁状況と捕獲したマッコウクジラの統計を示し(表8)、検討する。次にレファ出漁したプレダン鉈漁の操業状況と漁獲統計を示し(表9)検討する。

続いて動力船について昼間操業の動力船鉈漁と夜間操業の動力船網漁の操業状況と漁獲統計を一括

して動力船ごとに示し（表 10）、表末に「マッコウクジラ捕鯨参加」のデータを加えた。特に、動力船漁における年間漁獲の変化を見るために、動力船鉈漁の現在の主要対象獲物である小型鯨類 2 種（コビレゴンドウ、ハンナガイルカ）の動力船ごとの月別捕獲数（表 10-1）、動力船網漁の主要対象獲物であるイトマキエイ類 3 種（ブレラン、ボウ、モク）の動力船ごとの月別漁獲数（表 10-2）を示して、年間の漁獲の動態を検討する。

3・1 プレダン捕鯨

ここでは表 8 を参照しながら、捕鯨の詳細を述べてみたい。2011 年のマッコウクジラ捕獲総数は 14 頭であり、7 回の捕鯨回数に捕獲した。捕鯨回数一回あたりの捕獲頭数は 2 頭となり、捕獲頭数は平均を下回る漁獲となった。

年間 14 回の捕鯨出漁があり、データのない 4 回を除いた延べ出漁日数は 82 日で 14 頭を捕獲し、漁獲努力量（出漁日数）当りの漁獲量（漁獲数）は 17.1% である。14 回の捕鯨出漁は全てバレオ出漁で捕鯨回数は 7 回、7 回は捕獲がなく、そのうちの 4 回は鉈を打ち込む捕獲機会がなく、3 回は捕鯨失敗に終わっている。クジラが捕獲された 7 回については、延べ隻数 46 隻で 14 頭のクジラを捕獲し、漁獲努力量（出漁隻数）当りの漁獲量（漁獲数）は 30.4% である。

初漁は 2 月 3 日、漁期に入ってから初漁は 6 月 12 日であった。月別の捕獲では、漁期（5 月～9 月）以外に捕獲したクジラは 2 月と 11 月、12 月の 3 回で、8 頭を捕獲して年間の半数以上に達している。残る 4 回は漁期におけるバレオ出漁での捕獲である。以下、捕鯨出漁の各状況を詳しく見ていきたい。

1 月 7 日に当年初の通鯨があり、バレオ出漁したが捕獲機会はなく、漁の詳細もデータが取れなかった。初漁の 2 月 3 日は稼働している 15 隻のプレダン中 5 隻が早朝にバレオ出漁し、全船が協力して 1 頭を捕獲した。続く 2 月 10 日のバレオ出漁では 1 隻が鉈を打ったが鉈網が切れて失敗している。

漁期の 5 月には 17 日にバレオ出漁があり 12 隻が出漁した。この時も 1 隻が鉈を打ったがクジラに曳かれて船が転覆し、鉈網が切れて失敗している。25 日にもバレオ出漁があり、2 隻がそれぞれのクジラに鉈を打ったが、1 隻は鉈が抜け 1 隻は鉈網が切れて 2 頭とも獲り逃がしている。

6 月に入り 4 日に 9 隻がバレオ出漁したが捕獲機会がなく帰漁している。漁期の初漁にあたる 12 日は昼前に 8 隻がバレオ出漁し、5 隻で巨鯨 1 頭を捕獲したが 3 隻は失敗して獲り逃がしている。16 日は詳細データがないが、クジラに接近しての捕獲機会はなかった。

7 月 28 日は午後からバレオ出漁があり、4 隻で 1 頭を捕獲した。8 月は 25 日早朝に 10 隻がバレオ出漁して全船が捕鯨参加して 3 頭を捕獲した。その内訳は 7 隻で 1 頭、3 隻で 1 頭、3 隻で 1 頭であり、延べ隻数は 13 隻になるが、この捕鯨例では、*Manula Belolo* が鉈を打ったクジラに *Horo Tenā* と *Baka Tenā* 応援して捕殺し、*Baka Tenā* が鉈を打ったクジラに *Horo Tenā* と *Manula Belolo* が応援して捕殺している。つまり 3 隻で協力して 2 頭のクジラを捕獲し、加えて 3 隻のプレダンを曳航する各動力船も捕殺したクジラを曳くなどして捕鯨に参加した。動力船が加わった捕鯨技術により多

表8 マッコウクジラ捕鯨出漁と捕獲状況 2011年

ブレダ名	マッコウクジラ出現月日と捕獲状況														統計					
	1 1月7日	2 2月3日	3 2月10日	4 5月17日	5 5月25日	6 6月4日	7 6月12日	8 6月16日	9 7月28日	10 8月25日	11 8月31日	12 9月10日	13 11月9日	14 12月19日	捕獲 頭数	捕獲 回数	捕獲 回数	捕獲 回数	捕獲なし 回数	出漁 回数
Java Tenā															0	2			1	3
Kebako Pukā													⊙		1	1			3	4
Kelulus				x											0	2			3	5
Kena Pukā				x																
Sili Tenā																				
Dolu Tenā				x											2	2			3	7
Horo Tenā				△											1	3	2		1	6
Soge Tenā							x								2	3			2	7
Holo Sapā															0	2			4	6
Teti Heri				x			x								0	2			4	6
Kopo Paker				x											0	0			3	3
Nara Tenā				x											0	0			3	3
Bui Pukā															1	0			3	4
Sika Tenā				x											1	1			2	4
Demo Sapā				x											0	1			1	2
Boli Sapā				x											0	1			1	2
Manula Belolo				x											1	6			3	8
Peraso Sapā				x											2	3			1	6
Baka Tenā				x											2	3			1	4
Muko Tenā				x											1	3			1	3
捕獲頭数	0	1	0	0	0	0	1	0	1	3	1	0	6	1	14					
捕獲応擧数	—	4	—	—	—	4	—	—	3	10	3	—	6	2	32					
捕獲失敗数	0	0	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0					4	
不捕獲日出漁数	?	—	?	12	?	9	—	?	—	—	—	14	—	—						
出漁数	?	5	?	12	?	9	8	?	4	10	4	14	10	3					37	82

凡例 ハレオ出漁 捕獲 ⊙ ハレオ出漁 応擧 ○ ハレオ出漁 失敗 △ ハレオ出漁 不捕獲 × 不稼働ブレダ

頭数捕獲が可能となり、捕獲した2頭のクジラはプレダン3隻で分配し、また動力船も分配を得ることができる。31日は早朝のバレオ出漁4隻で1頭を捕獲した。

9月10日は昼前にバレオ出漁があり、1隻を除きほぼ全プレダン14隻が出漁したが、クジラの浮上はなかった。漁期が終わり、11月9日午前にバレオ出漁で10隻が出漁し、当年最多の6頭を捕獲した。内訳は単独捕獲が2頭、2隻で1頭、2隻で1頭、3隻で1頭、3隻で1頭となる。このうち1隻は捕獲と応援、1隻は2頭に応援しているので延べ12隻で6頭の捕獲である。12月19日には午前に3隻がバレオ出漁して1頭を捕獲して、2011年の捕鯨は終了している。

当年の捕鯨は、捕獲頭数14頭のうち漁期に4回の出漁で6頭を捕獲した。休漁期において3回で8頭の捕獲があり、殊に11月に1回の出漁で6頭の多頭数捕獲になり、1回で年間捕獲頭数の約4割を捕獲したことが極立っている。なお、捕鯨参加したプレダン15隻のうち5隻は捕獲がなく、そのうち1隻はクジラ肉分配がなかった。捕鯨出漁して捕獲した割合は約56%、捕獲失敗を含む捕獲なしの割合は約44%であった。

3・2 プレダン銛漁

ここでは表9を参照しながら、プレダン銛漁の詳細を述べてみたい。当年に稼働しているプレダン15隻のうち漁期にレファ出漁したプレダンは7隻に過ぎない。プレダンの漁期における操業レファ出漁での延べ出漁日数は145日で、そのうち延べ漁獲日数は48日であった。出漁日数あたりの漁獲日は約33.1%となる。マッコウクジラを除く漁獲総数は67頭(匹)で、漁獲努力量(出漁日数)当りの漁獲量(漁獲数)は約46.2%となる。

5月2日に1隻が儀礼的出漁して以来5月は7隻が操業し、延べ出漁日数は49日、延べ漁獲日数は13日で、このうち2隻は漁獲なしである。漁獲はイトマキエイ類9匹、小型鯨類5頭、ジンベエザメ1匹、マンボウ1匹の計16匹(頭)捕獲している。

6月は5隻が操業し、延べ出漁日数は47日、延べ漁獲日数は20日で、このうち1隻は捕獲なしである。漁獲はイトマキエイ類22匹、小型鯨類9頭、カジキ1匹、オサガメ1匹の計33匹(頭)捕獲している。

7月は3隻が操業し、延べ出漁日数は49日、延べ漁獲日数は15日である。漁獲はオニイトマキエイ1匹を含むイトマキエイ類5匹、コビレゴンドウ1頭を含む小型鯨類11頭、ジンベエザメ1匹、カジキ2匹の計19匹(頭)捕獲し、27日で操業を終えている。

当年は*BakaTenā*、*ManulaBelolo*、*PersoSapā*、の3隻が積極的に稼働し、主要対象獲物の漁獲は、イトマキエイ類36匹で漁獲総数の54%、小型鯨類24頭で漁獲総数の36%であった。

3・3 動力船銛漁

ここでは表10を参照して動力船の操業のうち、動力船銛漁について述べてみたい。2011年現在29隻の船体が存在し、そのうちで稼働している船は20隻である。当年1月から銛漁で操業した船は

表10-1 動力船船釣漁小型鯨類 2011

動力船	コビレ ゴンドウ	ハンナガ イルカ	2011年												捕獲数		漁獲合計											
			1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月			8月		9月		10月		11月		12月		
			TB	TK	TB	TK	TB	TK	TB	TK	TB	TK	TB	TK	TB	TK		TB	TK	TB	TK	TB	TK	TB	TK	TB	TK	temu beli
1 SAFETY	temu beli	temu kira																										0
2 FATO KELESAR	temu beli	temu kira				1	1	1		5			1							3	1	5				2	16	18
3 RONI	temu beli	temu kira	2							1																2	1	3
4 KOPO PIGER	temu beli	temu kira																										0
5 TA LERE LERE	temu beli	temu kira																										0
6 FILANA	temu beli	temu kira																										0
7 ARNOL 1	temu beli	temu kira																										0
8 ARNOL 2	temu beli	temu kira																										0
9 FUNO PITO	temu beli	temu kira	3																		11	5	1	2	8	16	22	
10 BERO	temu beli	temu kira	6	1	1	1				3	1			12					2	16	1	17	1	5	11	56	67	
11 SUKA HAMA	temu beli	temu kira																										0
12 SABAT	temu beli	temu kira	4	1	2															2			2		8	3	11	
13 ARA JATI	temu beli	temu kira	1	1	2					7			12						2	9			4		4	34	38	
14 DUA KEMBAR	temu beli	temu kira																										0
15 KOPPO LERE	temu beli	temu kira								2													4			6	6	
16 KANIBAL	temu beli	temu kira																										0
17 KOLOPO	temu beli	temu kira			1			3																	1	3	4	
18 ILE LODO	temu beli	temu kira																										0
19 ANA ABANG	temu beli	temu kira																			3					3	3	
20 PIGES2	temu beli	temu kira																										0
21 FELMINA	temu beli	temu kira	4	2						8			3											13	8	24	30	
22 SARDILES	temu beli	temu kira																										0
23 LUSI	temu beli	temu kira	4	1	4																					8	1	9
24 PIGES1	temu beli	temu kira																										0
25 TRI MONAS	temu beli	temu kira																										0
26 JULIANA	temu beli	temu kira	8	1	1	1				1	10									15	3	1	7	6	11	44	55	
27 BADAH GOLE ILE	temu beli	temu kira																										0
28 GEREKAT LEFO	temu beli	temu kira																										0
29 TITE HENA	temu beli	temu kira																										0
	temu beli	temu kira	32	11	5	1	0	1	0	0	0	0	0	2	4	3									59	207		
	temu beli	temu kira	3	1	2	5	36	0	28	0	30	39	48	15													207	
	合計	合計																								59	207	
	漁獲合計	漁獲合計																										266
	各月漁獲合計	各月漁獲合計	35	12	7	6	36	1	28	0	30	41	52	18														

不稼働動力船

漁日数 99 日で延べ漁獲日数 38 日であり、獲物の総漁獲数は 59 頭（匹）であった。主要対象獲物である小型鯨類は 36 頭（B - 0/K - 36）・その他 4 頭であった。

6 月は 8 隻が操業して、延べ出漁日数 30 日で延べ漁獲日数 12 日であり、獲物の総漁獲数は 23 頭（匹）であった。主要対象獲物である小型鯨類はコビレゴンドウ 1 頭のみであったが、イトマキエイ類を 20 匹捕獲している。

7 月は 7 隻が操業して、延べ出漁日数 76 日で延べ漁獲日数 29 日であり、獲物の総漁獲数は 52 頭（匹）であった。主要対象獲物である小型鯨類は 28 頭（B - 0/K - 28）であった。その他にイトマキエイ類を 14 匹捕獲している。

表10-2 動力船舶網漁イトマキエイ類 2011

No.	動力船 belele bou moku	2011年												捕獲数		合計						
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	belele	bou moku							
1	SAFETY belele bou moku																1	7	8			
2	FATO KELESAR belele bou moku					2													2	2		
3	RONI belele bou moku						1												1	7	8	
4	KOPO PIGER belele bou moku							6												0	0	
5	TA LERE LERE belele bou moku																			0	0	
6	FILANA belele bou moku																			0	0	
7	ARNOL 1 belele bou moku																			0	0	
8	ARNOL 2 belele bou moku																			0	0	
9	FUNO PITO belele bou moku																			0	0	
10	BERO belele bou moku									2										3	3	
11	SUKA HAMA belele bou moku																			0	0	
12	SABAT belele bou moku																			1	1	
13	ARA JATI belele bou moku																			1	4	5
14	DUA KEMBAR belele bou moku																			7	7	7
15	KOPPO LERE belele bou moku																			1	3	4
																				1	2	3
																				1	1	2

		2011年												精算数		合計	
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	belele	bou	moku	合計
		belele	bou	moku	belele	bou	moku	belele	bou	moku	belele	bou	moku	belele	bou	moku	
16	動力船	belele															
		bou															
		moku															
17	KANIBAL	belele				3											4
		bou															
		moku															
18	KOLOPO	belele			1	10		2	1								17
		bou															
		moku															
19	ILE LODO	belele															
		bou															
		moku															0
20	ANA ABANG	belele															0
		bou															
		moku															
21	PIDES 2	belele															0
		bou															
		moku															
22	FELMINA	belele				1	1	1						1			1
		bou															
		moku															
23	SARDILES	belele				13	7	4			1			1	3		28
		bou															
		moku															
24	LUSI	belele															0
		bou															
		moku															
25	PICES1	belele				1	1	2						3			0
		bou															
		moku															
26	TRI MONAS	belele				11	8										25
		bou															
		moku															
27	JULIANA	belele															0
		bou															
		moku															
28	BADAH OLE ILE	belele				12											12
		bou															
		moku															
29	GEREKAT LEFO	belele															0
		bou															
		moku															
30	TITE HENA	belele	0	0	0	0	2	4	0	2	1	0	0	5			0
		bou	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		moku	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		合計	0	0	0	1	22	9	6	4	2	0	0	21	5	101	
		belele				72	22	6	4	0	0	0	0	21	5	101	
		bou															
		moku															
		合計	0	0	0	1	73	15	6	4	3	0	0	21	101		127
		belele				73	28	15	6	3	1	0	0	21	101		
		bou															
		moku															
		合計	0	0	0	1	73	15	6	3	1	0	0	21	101		127
		belele				73	28	15	6	3	1	0	0	21	101		
		bou															
		moku															
		合計	0	0	0	1	73	15	6	3	1	0	0	21	101		127

不稼働動力船

8月は獲物の総漁獲数は3頭であった。10日に6隻が緊急出漁して、そのうちの3隻がそれぞれシャチを1頭ずつ捕獲している。

9月は4隻が操業して、延べ出漁日数14日で延べ漁獲日数9日であり、獲物の総漁獲数は32頭(匹)であった。主要対象獲物である小型鯨類は30頭(B-0/K-30)であった。

漁期の終わる10月は4隻が操業して、延べ出漁日数24日で延べ漁獲日数23日であり、獲物の総漁獲数は52頭(匹)であった。主要対象獲物である小型鯨類は41頭(B-2/K-39)であった。その他1隻が1日でシャチ2頭を捕獲している。

11月は7隻が操業して、延べ出漁日数22日で延べ漁獲日数19日であり、獲物の総漁獲数は57頭(匹)であった。主要対象獲物である小型鯨類は52頭(B-4/K-48)であった。

12月は5隻が操業して、延べ出漁日数11日で延べ漁獲日数9日であり、主要対象獲物である小型鯨類は18頭(B-3/K-15)、その他5頭であった。12月15日の漁獲をもって当年の操業を終えている。

当年の主な漁獲種の全漁獲にしめる割合を比較すると、ハシナガイルカ207頭で56.3%、コビレゴンドウ59頭で16%、その他の小型鯨類20頭で5.4%、イトマキエイ類57匹で15.5%、サメ類5匹で1.4%、硬骨魚類17匹で4.6%、ウミガメ類4匹1.1%である。また、希少鯨類であるシャチが5頭とオガワコマッコウ2頭が獲れている。

また、捕鯨出漁における、動力船のプレダン曳航によるマッコウクジラ捕鯨参加は延べ85隻あり、14隻は捕鯨プレダン曳航、32隻は捕鯨応援プレダン曳航で延べ46隻がクジラの分配を受けている。残る39隻は曳航したプレダンに捕鯨がなく終わっている。

3・4 動力船網漁

ここでは表10を参照して動力船の操業のうち、動力船網漁について述べてみたい。稼働して20隻で当年5月から網漁で操業した船はANAABANGとLUSIを除く18隻で、延べ出漁日数534日、延べ漁獲日数は289日であった。操業日あたりの漁獲日は約54.1%となる。年間総漁獲数は848匹(頭)で、漁獲努力量(出漁日数)当りの漁獲量(漁獲数)は158.8%になる。

主要対象獲物であるイトマキエイ類の年間漁獲数は、大型のオニイトマキエイ(BL)5匹、中型のイトマキエイ(BO)21匹、小型のイトマキエイ(MO)101匹の計127頭であった(表10-2)。イトマキエイ類についての漁獲努力量(出漁日数)当りの漁獲量(漁獲数)は23.8%であった。全漁獲にしめる割合は約15%である。

特筆すべきことは、オナガザメ科のサメ、ニタリが497匹の漁獲があり、全漁獲の約58.6%を占める稀にみる豊漁になったことである。小型鯨類は59頭で全漁獲の約7%である。以下月別に詳細を見ていきたい。

漁期前の4月末に1隻が操業して、出漁日数5日で捕獲日数1日であり、獲物の総漁獲数は2匹(頭)であった。イトマキエイ類の漁獲数は小型のイトマキエイ1匹であった。

漁期の始まった5月は13隻が操業して、延べ出漁日数131日で延べ漁獲日数58日であり、獲物の総漁獲数は105匹(頭)であった。そのうち主要対象獲物であるイトマキエイ類の捕獲数は(BL - 0/BO - 1/MO - 72)の計73匹であった。

6月は9隻が操業して、延べ出漁日数61日で延べ漁獲日数25日であり、獲物の総漁獲数は43匹(頭)であった。そのうち主要対象獲物であるイトマキエイ類の漁獲数は(BL - 2/BO - 4/MO - 22)の計28匹であった。

7月は13隻が操業して、延べ出漁日数128日で延べ漁獲日数74日であり、獲物の総漁獲数は302匹(頭)であった。主要対象獲物であるイトマキエイ類の漁獲数は(BL - 0/BO - 9/MO - 6)の計15匹のみであった。しかしながら中旬からニタリが大漁になり、254匹の漁獲を数えた。

8月は13隻が操業して、出漁日数112日で漁獲日数71日であり、獲物の総漁獲数は259匹(頭)であった。主要対象獲物であるイトマキエイ類の漁獲数は(BL - 2/BO - 4/MO - 0)の計6匹に過ぎないが、先月に続きニタリが大漁になり、213匹の漁獲を数えた。

9月は11隻が操業して、延べ出漁日数75日で延べ漁獲日数48日であり、獲物の総漁獲数は112匹(頭)であった。主要対象獲物であるイトマキエイ類の漁獲数は(BL - 1/BO - 2/MO - 0)の計3匹のみであった。当月はニタリ11匹、カジキ36匹、マグロ35匹のほかハシナガイルカ19頭が漁獲された。

漁期の終わる10月は3隻が操業して、延べ出漁日数20日で延べ漁獲日数12日であり、獲物の総漁獲数は17匹(頭)であった。主要対象獲物であるイトマキエイ類の漁獲数は(BL - 0/BO - 1/MO - 0)の計1匹であった。マグロの8匹が主な漁獲である。11月はSALDILES 1隻が2日だけ操業したが漁獲がなく、2日に操業が終了した。

当年の主な漁獲の全漁獲種にしめる割合を比較すると、硬骨魚類では、カジキ79匹、マグロ61匹、マンボウ4匹で漁獲種合計144匹になり、全漁獲にしめる割合は約17%になる。サメ類では、ニタリ497匹、アオザメ7匹、イタチザメ5匹、ジュモクザメ8匹で漁獲合計517匹になり、全漁獲にしめる割合は61%になる。小型鯨類はハシナガイルカ54頭とその他5頭の59頭で、全漁獲にしめる割合は約7%にあたる。サメ科ニタリの大漁が際立っている。

3・5 考察

当年のマッコウクジラ捕鯨は捕獲頭数14頭で、前年より8頭減りやや数少ない漁獲となった。漁期には5頭しか獲れず、捕獲失敗も3回あった。11月に1回で6頭の高頭数捕獲があり、捕鯨出漁した10隻全船が捕鯨参加してクジラを得ている。プレダン鰯漁は前年より延べ63日多く操業したが、7月まで積極的に出漁した船は3隻に過ぎなかった。目立つところでは小型のイトマキエイを動力船鰯漁とほぼ同数の28匹漁獲している。

動力船操業がますます盛んになり、延べ出漁日数は鰯漁329日、網漁534日の863日となった。

漁獲総数は銚漁 368 匹（頭）、網漁 848 匹（頭）で合計 1216 匹（頭）となった。漁獲努力量（出漁日数）当りの漁獲量（漁獲数）は銚漁約 112%、網漁約 159%、動力船操業全体では約 141%であった。やはり網漁の漁獲効率の良さが際立っている。

網漁での小型のイトマキエイの漁獲は前年の三分の一に減ったが、サメ科のニタリは 497 匹もの漁獲があった。サメはいわゆるフカヒレ製品としての需要があるため現金収入が得られ、動力船の燃料費購入を助けている。

4. 2012 年の操業と漁獲統計

本章では 2012 年の漁獲記録をプレダン捕鯨、プレダン銚漁と動力船銚漁、動力船網漁の操業形態別に詳細に示して考察したい。

まずプレダン捕鯨での出漁状況と捕獲したマッコウクジラの統計を示し（表 11）、検討する。次にレファ出漁したプレダン銚漁の操業状況と漁獲統計を示し（表 12）検討する。

続いて動力船について昼間操業の動力船銚漁と夜間操業の動力船網漁の操業状況と漁獲統計を一括して動力船ごとに示し（表 13）、表末に「マッコウクジラ捕鯨参加」のデータを加えた。特に、動力船漁における年間漁獲の変化を見るために、動力船銚漁の現在の主要対象獲物である小型鯨類 2 種（コビレゴンドウ、ハシナガイルカ）の動力船ごとの月別捕獲数（表 13-1）、動力船網漁の主要対象獲物であるイトマキエイ類 3 種（ブレラン、ボウ、モク）の動力船ごとの月別漁獲数（表 13-2）を示して、年間の漁獲の動態を検討する。

4・1 プレダン捕鯨

ここでは表 11 を参照しながら、捕鯨の詳細を述べてみたい。2012 年のマッコウクジラ捕獲総数は 3 頭という極端な不漁の年となった。捕鯨回数は 2 回しかなく、捕鯨回数一回あたりの捕獲頭数は 1.5 頭となる。年間捕獲頭数は調査を開始した 1994 年からの 20 年間で最も少なく、2005 年・2009 年の年間各 5 頭、2006 年の年間 4 頭を下回る不漁となっている。

延べ出漁日数は 70 日で 3 頭を捕獲し、漁獲努力量（出漁日数）当りの漁獲量（漁獲数）は 4.29% である。8 回の捕鯨出漁は全てバレオ出漁で捕鯨回数は 2 回、5 回は捕獲がなく、そのうちの 2 回は銚を打ち込む捕獲機会がなく、3 回は捕鯨失敗に終わっている。クジラが捕獲された 2 回については、延べ隻数 15 隻で 3 頭のクジラを捕獲し、漁獲努力量（出漁隻数）当りの漁獲量（漁獲数）は 20% である。

初漁は 2 月 29 日、漁期に入ってから捕獲はなかった。当年は不漁と同時に不幸な年ともなったのだが、以下、捕鯨出漁の各状況を詳しく見ていきたい。

2 月 6 日午後に出漁の通鯨があり、11 隻がバレオ出漁して 1 隻がクジラに銚を打ったが銚が正確に刺さらずに抜けて獲り逃がしている。続いて 10 日にも午後バレオ出漁があり、10 隻が出漁し

表11 マッコウクジラ捕鯨出漁と捕獲状況 2012年

プレダン名	マッコウクジラ出親月日と捕獲状況								統計			
	1	2	3	4	5	6	7	8	捕獲回数	捕獲失敗回数	捕獲なし回数	出漁回数
Java Tenā												
Kebako Pukā	x	x							0	0		6
Kelulus	△	x	○						0	1	1	4
Kena Pukā	x								0	2		4
Sili Tenā												
Dolu Tenā	x	x			△	○			0	1	1	4
Horo Tenā	x								0	0	0	1
Soge Tenā	x	x			x	x			0	0	0	6
Holo Sapā												
Teti Heri	x								0	0	0	4
Kopo Paker									0	0	0	1
Nara Tenā	x				x	○			0	1	5	6
Bui Pukā												
Sika Tenā	x	x	○						0	1	2	3
Demo Sapā			○						0	1	1	2
Boli Sapā									0	0	0	0
Manula Belolo	x	x	⊙			○			1	1	4	6
Peraso Sapā	x	x	○			○	x		0	2	4	6
Baka Tenā	x	x	○			⊙	x		1	1	5	7
Muko Tenā	x					⊙	x		1	1	2	4
捕獲回数	0	0	1	0	0	2	0	0	3			
捕獲失敗回数	—	—	6	—	—	6	—	—	12			
不捕獲日出漁隻数	11	0	0	0	1	0	0	1			3	
出漁隻数	11	10	7	10	3	10	9	10			53	70

ハレオ出漁 捕獲 ⊙ ハレオ出漁 応覆 ○ ハレオ出漁 失敗 △ ハレオ出漁 不捕獲 × 不稼働プレダン

表12 プレダン鯨漁 2012年1月～12月

プレダン船名	マコウクジラ	マンタ	ハレオ	ハレオ	ハレオ	マコウクジラ	マンタ	ハレオ	ハレオ	ハレオ	5月			6月			7月			マコウクジラ		
											出漁回数	捕獲回数	失敗回数	出漁回数	捕獲回数	失敗回数	出漁回数	捕獲回数	失敗回数			
1 Peledang	kotek	lema																				
2 Kebako Pukā																						
3 Kelulus																						
4 Kena Pukā																						
5 Sili Tenā																						
6 Dolu Tenā																						
7 Horo Tenā																						
8 Soge Tenā																						
9 Holo Sapā																						
10 Teti Heri																						
11 Kopo Paker																						
12 Nara Tenā																						
13 Bui Pukā																						
14 Sika Tenā																						
15 Demo Sapā																						
16 Boli Sapā																						
17 Manula Belolo	1																					
18 Peraso Sapā																						
19 Baka Tenā	1	2																				
20 Muko Tenā	1																					
計	3	2	0	3	0	4	2	3	0	0	17	10	1	12	5	7	2	29	8	70	12	3

不稼働プレダン

たがクジラは遠くに去ったあとで捕獲機会はなく終わっている。

初漁は2月29日、午後にバレオ出漁があり、7隻で1頭の巨鯨を捕獲した。応援船にて銚を打つべく海に飛び込んだ *SikaTenā* 船の若い銚打ち G.K. Sulaona 氏が、捕鯨時にクジラの尾ヒレでの打撃による内蔵負傷が原因で三日後の3月3日に命を落としている。捕鯨事故による死者は1972年以来40年ぶりであり、捕鯨時の事故による死亡者は記録の残る20世紀以降のラマレラ捕鯨史で4人目という希有なできごとである。

ちなみに調査を開始した1994年から2013年までの20年間に捕鯨・銚漁による重大な負傷と死亡事故は8件記録されている。

1997年6月4日 *KebakoPukā* 船のベテラン漁師 B.D.Gorang 氏は、クジラを突いた際に繰り出された銚綱が左足に絡まり、病院にて左脚の膝から下を切断した。

2001年11月27日 *KebakoPukā* 船の壮年銚打ち S. S.Kerap 氏がクジラを突いた際に尾びれに打たれ右腕の下腕を骨折した。

2003年5月2日 *Kelulus* 船の壮年舵手 F.B.Beding 氏がクジラにとどめを刺しに海中に入った際、尾びれに打たれ右腕の下腕を骨折した。

2007年5月14日動力船 *ALNOL* の若い漁師 T. N.Ebaona 氏がイルカを突いた際に、両足を銚綱に巻かれて海中に引き込まれて溺れ、病院にて死亡した。

2012年からは先の死亡事故以来、事故が相次いでいる。2012年5月15日動力船 *BERO* の青年銚打ち M.D. Ebaona 氏が オニイトマキエイを突いた際に、銚綱が右足首に絡み海中に引き込まれて負傷し、溺れたが救出された。

2013年2月5日 *DoluTenā* 船ベテラン漁師 Y.S. Sulaona 氏は、クジラを突いた際に繰り出された銚綱が左足に絡まり、病院にて左脚の足首から切断した。

2013年7月13日 *BakaTenā* 船の壮年銚打ち F.K.Tufaona 氏がクジラを突いた際に、海中でクジラの攻撃を受けてプレダンに激突し、右肋骨3本骨折と骨盤を負傷した。

その後、漁期である5月には9日昼前にバレオ出漁で10隻が出漁、1隻はクジラに接近したがジャンプを繰り返すクジラに銚を打つチャンスがなく終わった。15日には前述のように早朝の動力船銚漁で事故があり、正午のバレオ出漁がでは3隻のみが出漁した。1隻はクジラに銚を打ったが銚が正確に刺さらずに失敗している。

5月以降は漁期の捕鯨出漁はなく、10月17日朝バレオ出漁で10隻が出漁し7隻で2頭の捕獲があった。3隻は捕獲機会がないまま帰漁している。内訳は4隻で1頭捕獲し、3隻と先に捕獲した1隻が応援に参加し4隻で1頭の捕獲である。12月に入り3日早朝から9隻がバレオ出漁したが捕獲機会がなく帰漁した。7日には早朝から10隻がバレオ出漁して、1隻はクジラに銚を打ったが銚が抜け

て捕鯨失敗におわり、2012年の捕鯨は終了した。

当年の捕鯨は、先に述べたように記録的な不漁であった。漁期の捕獲はなく、休漁期において2回で3頭の捕獲があったのみである、2月の事故以来にプレダンの操業そのものも減少している。また、捕鯨参加したプレダン15隻のうち捕獲があったのは3隻で、残る12隻中7隻は捕鯨応援があったが、5隻は捕鯨機会がなくクジラ肉分配もなかった。捕鯨出漁で捕獲した割合は約20%、捕獲失敗を含む捕獲なしの割合は約80%であった。捕獲のなかった6回のうち3回は捕獲失敗によるものである。

4・2 プレダン鈎漁

ここでは表12を参照しながら、プレダン鈎漁の詳細を述べてみたい。当年は2月に死亡事故があった影響からプレダンはほぼ稼働してない。当年に稼働しているプレダン16隻のうちレファ出漁したプレダンは6隻に過ぎず、その中でも積極的に出漁したプレダンは *Baka Tenā* 1隻のみといえる。

漁期におけるレファ出漁での延べ出漁日数はわずか29日で、そのうち延べ漁獲日数は8日であった。出漁日数あたりの漁獲日は約28.6%となる。マッコウクジラを除く漁獲総数は14頭(匹)で、漁獲努力量(出漁日数)当りの漁獲量(漁獲数)は約48.3%となる。

5月1日に1隻が儀礼的出漁して以来5隻が操業し、延べ出漁日数は10日、延べ漁獲日数は1日である。このうち1隻は儀礼的出漁、*Kebako Pukā* が積極的に稼働したが漁獲はなく、1隻のみがコビレゴンドウとサラワクイルカの2頭を1日に捕獲している。

6月は2隻が操業し、延べ出漁日数は12日、延べ捕獲日数は5日で、このうち1隻は1日の操業で捕獲はなく、4日に操業を終了している。1隻が11日間操業してオニイトマキエイ1匹を含むイトマキエイ類4匹、コビレゴンドウ1頭を含む小型鯨類5頭の計9匹(頭)捕獲している。

7月は1隻のみが7日間操業して漁獲日数は2日、オニイトマキエイ1匹、コビレゴンドウ2頭の計3匹(頭)捕獲し、20日で操業を終えている。

主要対象獲物の漁獲は、イトマキエイ類5匹で漁獲総数の36%、小型鯨類9頭で漁獲総数の64%で、その他の漁獲はなかった。

4・3 動力船鈎漁

ここでは表13を参照して動力船の操業のうち、動力船鈎漁について述べてみたい。2012年現在29隻の船体が存在し、そのうちで稼働している船は25隻である。当年には船体数に変化はないが船体解体と新造船、船名変更があった。20・*PICES2*は解体され4・*KOPO PIGER*が *FRANS*と船名変更して格納された。4・*KOPO PIGER*の船小屋には新造船 *KAKA ARI*が格納された。28・*GREKAT LEFO*は船名を *DOFIN*に変更した。

当年1月から鈎漁で操業した船は15隻で延べ出漁日数286日、延べ捕獲日数は189日であった。操業日あたりの漁獲日は約66.1%となる。マッコウクジラ捕鯨参加を除く全獲物総数は頭(匹)355

数 31 日で延べ漁獲日数 15 日であり、主要対象獲物である小型鯨類は 16 頭 (B - 5/K - 11) であった。その他にイトマキエイ類を 2 匹捕獲している。

8 月は夜間操業の動力船網漁が解禁になったため銜漁の操業は激減した。2 隻のみが 3 日ずつ 6 日操業して、延べ漁獲日数 5 日、主要対象獲物である小型鯨類は 7 頭 (B - 1/K - 6) だけであった。

9 月は 3 隻が操業して、延べ出漁日数 7 日で延べ漁獲日数 7 日であり、主要対象獲物である小型鯨類はハシナガイルカを 29 頭捕獲した。

銜漁の終盤 10 月は 7 隻が操業して、延べ出漁日数 41 日で延べ漁獲日数 32 日であり、主要対象獲物である小型鯨類はハシナガイルカ 41 頭ハナゴンドウ 2 頭であった。また、イトマキエイ類を 5 匹捕獲している。

11 月は 4 隻が操業して、延べ出漁日数 14 日で延べ漁獲日数 12 日であり、主要対象獲物である小型鯨類はハシナガイルカ 32 頭その他 1 頭、イトマキエイ類 2 匹を捕獲した。

12 月はコビレゴンドウの回遊があり、10 隻が操業して、延べ出漁日数 31 日で延べ漁獲日数 12 日であり、小型鯨類はコビレゴンドウ 10 頭とハシナガイルカ 1 頭、サラワクイルカ 3 頭、ユメゴンドウ 2 頭の 16 頭を捕獲している。これら小型鯨類は 28 日から 31 日の間にほぼ全頭を捕獲していることから、種の混群での回遊である。31 日のコビレゴンドウ 4 頭捕獲で当年の操業を終えている。

当年の主な漁獲種の全漁獲にしめる割合を比較すると、ハシナガイルカ 209 頭で 34.3%、コビレゴンドウ 81 頭で 13.3%、その他の小型鯨類 19 頭で 3.1%、イトマキエイ類 22 匹で 3.6%、サメ類 12 匹で 2%、硬骨魚類 11 匹で 1.8%、ウミガメ類 1 匹 0.2% である。コビレゴンドウが 81 頭の大漁になり、およそマッコウクジラ 8 頭分の鯨肉が村内で分配・交換されたことになる。

また、捕鯨出漁における、動力船のプレダン曳航によるマッコウクジラ捕鯨参加は延べ 66 隻あり、3 隻は捕鯨プレダン曳航、12 隻は捕鯨応援プレダン曳航で延べ 15 隻がクジラの分配を受けている。残る 51 隻は曳航したプレダンに捕鯨がなく終わっている。

4・4 動力船網漁

ここでは表 13 を参照して動力船の操業のうち、動力船網漁について述べてみたい。当年より夜間操業の動力船網漁の解禁は、2009 年から導入した漁獲効率の良い新たな漁法である網漁から伝統漁法である銜漁を保護する目的で、8 月からと村の協議で決定した。従って網漁の漁期は 8 月から 10 月までの 3 ヶ月に限られる。

稼働している 25 隻で当年 8 月から網漁で操業した船は *SABAT*、*DUA KEMBAR* 2 隻を除くほぼ全船 23 隻で、延べ出漁日数 627 日、延べ漁獲日数は 326 日であった。操業日あたりの漁獲日は約 52% となる。全獲物総数は 609 匹 (頭) で、漁獲努力量 (出漁日数) 当りの漁獲量 (漁獲数) は 97.1% になる。

主要対象獲物であるイトマキエイ類の年間漁獲数は、大型のオニイトマキエイ (BL) 10 匹、中型

のイトマキエイ (BO) 16 匹、小型のイトマキエイ (MO) 383 匹の計 409 匹であった (表 13-2)。イトマキエイ類についての漁獲努力量 (出漁日数) 当りの漁獲量 (漁獲頭数) は 65.2% であった。全漁獲にしめる割合は 67.2% になる。以下月別に詳細を見ていきたい。

漁解禁直前の 7 月末は 4 隻が操業して、延べ出漁日数 7 日で延べ漁獲日数 7 日であり、獲物の総漁獲数は 14 匹 (頭) であった。主要対象獲物であるイトマキエイ類の捕獲数は (BL - 1/BO - 1/MO - 8) の計 10 匹であった。

8 月は 21 隻が操業して、出漁日数 373 日で漁獲日数 206 日であり、獲物の総漁獲数は 421 匹 (頭) であった。主要対象獲物であるイトマキエイ類の漁獲数は (BL - 3/BO - 10/MO - 297) の計 310 匹で小型のイトマキエイが大漁となった。目立つところではカジキ 48 匹の漁獲があった。

9 月は 11 隻が操業して、延べ出漁日数 178 日で延べ漁獲日数 77 日であり、獲物の総漁獲数は 111 匹 (頭) であった。主要対象獲物であるイトマキエイ類の漁獲数は (BL - 5/BO - 3/MO - 52) の計 60 匹であった。その他ではカジキ 24 匹の漁獲があった。

漁期の終わる 10 月は 7 隻が操業して、延べ出漁日数 62 日で延べ漁獲日数 33 日であり、獲物の総漁獲数は 61 匹 (頭) であった。主要対象獲物であるイトマキエイ類の漁獲数は (BL 1/BO 2/MO - 23) の計 26 匹であった。その他ではカジキ 13 匹の漁獲がある。

11 月は *SUKA HAMA*、*KOLOPO* 2 隻が 4 日操業した。延べ出漁日数 7 日で延べ漁獲日数 3 日であり、獲物の総漁獲数は 7 匹 (頭) であった。イトマキエイ類の漁獲数は (BL 0/BO 0/MO - 3) の計 3 匹であった。ニタリの 2 匹、ハシナガイルカ 2 頭がその他の漁獲である。5 日をもって全船の操業が終了した。

当年の主な漁獲種の全漁獲にしめる割合を比較すると、硬骨魚類では、カジキ 88 匹、マグロ 7 匹、マンボウ 22 匹ほかで漁獲合計 118 匹、19.4% になる。サメ類では、ニタリ 24 匹、アオザメ 6 匹、イタチザメ 9 匹、シュモクザメ 6 匹で漁獲合計 45 匹、7.4% になる。小型鯨類は 38 頭で、約 6.2% にあたる。小型のイトマキエイが 381 匹の大漁となり、全漁獲の 6 割以上を占めた。

4・5 考察

当年のマッコウクジラ捕獲総数はわずか 3 頭という歴史的な不漁の年となった。1983 年に年間 2 頭の記録があるが、それに次ぐ数値で 2006 年の年間 4 頭を下回る不漁となっている。ブレダグ鉈漁も延べ操業 29 日で、1 隻のみが積極的に操業したに過ぎなかった。明らかに 2 月 29 日の捕鯨死亡事故の影響である。喪に服す意味もあるが、同時に恐怖心を抱いている漁師も少なからずいた。

動力船操業では、延べ出漁日数は鉈漁 286 日、網漁 627 日の 913 日となった。漁獲総数は鉈漁 356 匹 (頭)、網漁 611 匹 (頭) で合計 967 匹 (頭) となった。漁獲努力量 (出漁日数) 当りの漁獲量 (漁獲数) は鉈漁約 124%、網漁約 97%、動力船操業全体では約 106% であった。解禁が 8 月からとなった網漁は前年より操業日が多く、鉈漁は減じたが、鉈漁の漁獲効率が良くなっている。

銛漁では殊にコビレゴンドウが 81 頭の大漁になり、網漁では小型のイトマキエイが 381 匹の漁獲をあげて大漁となった。また、1 隻が新造され 2 隻が船名を変えて稼働している。

動力船網漁で漁獲されるカジキ、マグロなどは前年に続き豊漁である。これらと混獲されるサバ科などの魚類は仲買人が浜に買い付けに来るような傾向も見られる。また村内でも副食用に贈与されたり、現金販売されることも多く、食生活が豊かになっている。

5. 2013 年の操業と漁獲統計

本章では 2013 年 8 月末までの漁獲記録をプレダン捕鯨、プレダン銛漁と動力船銛漁、動力船網漁の操業形態別に詳細に示して考察したい。

まずプレダン捕鯨での出漁状況と捕獲したマッコウクジラの統計を示し（表 14）、検討する。次にレファ出漁したプレダン銛漁の操業状況と漁獲統計を示し（表 15）検討する。

続いて動力船について昼間操業の動力船銛漁と夜間操業の動力船網漁の操業状況と漁獲統計を一括して動力船ごとに示し（表 16）、表末に「マッコウクジラ捕鯨参加」のデータを加えた。特に、動力船漁における年間漁獲の変化を見るために、動力船銛漁の現在の主要対象獲物である小型鯨類 2 種（コビレゴンドウ、ハシナギルカ）の動力船ごとの月別捕獲数（表 16-1）、動力船網漁の主要対象獲物であるイトマキエイ類 3 種（プレラン、ボウ、モク）の動力船ごとの月別漁獲数（表 16-2）を示して、年間の漁獲の動態を検討する。

5・1 プレダン捕鯨

ここでは表 14 を参照しながら、捕鯨の詳細を述べてみたい。2013 年 8 月末までのマッコウクジラ捕獲総数は 15 頭である（12 月末まで 18 頭を捕獲したがデータの詳細は未収集）。捕鯨回数は 7 回、捕鯨回数一回あたりの捕獲頭数は 2.14 頭となる。

8 月末まで 20 回の捕鯨出漁があり、すべてバレオ出漁である。延べ出漁日数は 200 日で 15 頭を捕獲し、漁獲努力量（出漁日数）当りの漁獲量（漁獲数）は 7.5% である。20 回の捕鯨出漁のうち 13 回は捕獲がなく、そのうちの 5 回は銛を打ち込む捕獲機会がなく、8 回は捕鯨失敗に終わっている。クジラが捕獲された 7 回については、延べ隻数 48 隻で 15 頭のクジラを捕獲し、漁獲努力量（出漁隻数）当りの漁獲量（漁獲数）は 31.3% である。

初漁は 2 月 5 日、漁期に入ってから初漁は 5 月 6 日であった。当年は捕鯨出漁が多かったと同時に、捕鯨の失敗も多い年として記録される。以下、捕鯨出漁の各状況を詳しく見ていきたい。

2 月 5 日午後に出漁の通鯨があり、11 隻がバレオ出漁して 6 隻で 4 頭を捕獲した。内訳は 2 頭が単独捕獲、他の 2 頭はそれぞれ 2 隻で 1 頭ずつ捕獲している。捕獲できなかった 5 隻のうち 2 隻は捕獲機会がなく、3 隻は捕獲失敗に終わっているが、うち 2 隻は銛綱が切れ、1 隻は銛が正確に刺

表14 マッコウクジラ捕鯨出漁と捕獲状況 2013年(～8月末)

プレダンの名	マッコウクジラ出漁月日と捕獲状況																			統計						
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	捕獲日数	捕獲名数	捕獲名数	捕獲名数	出漁回数	
Java Tenā																										
Kebako Pukā																										
Keilulus																										
Kena Pukā																										
Sili Tenā																										
Dolu Tenā																										
Horo Tenā																										
Soge Tenā																										
Holo Sapā																										
Teti Heri																										
Kopo Pakar																										
Nara Tenā																										
Bui Pukā																										
Sika Tenā																										
Demo Sapā																										
Boli Sapā																										
Manula Belolo																										
Peraso Sapā																										
Baka Tenā																										
Muko Tenā																										
捕獲総数	4	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1	0	5	0	1	0	0	15	33					
捕獲失敗数	2	6	—	—	—	—	—	9	—	—	—	4	1	—	9	—	2	—	—							
不捕獲日出漁数	3	0	2	1	1	0	1	0	0	2	0	1	3	2	0	2	0	0	0	0	21					
不捕獲日出漁数	—	—	13	12	12	11	11	11	—	13	12	10	—	9	—	13	—	—	4	10						
出漁数	11	8	13	12	12	11	11	11	10	13	12	10	9	5	9	14	13	3	4	10						
計	15	2	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	1	22	47	6	6	1	0	0	53	7	200	33	15	

凡例 ハレオ出漁 捕獲 ● ハレオ出漁 失敗 △ ハレオ出漁 不捕獲 × ハレオ出漁 失敗 △-L レファ出漁 不捕獲 ×-L 不稼働プレダン

表15 プレダンの名 2013年1月～8月

プレダンの名	マッコウクジラ出漁月日と捕獲状況																			統計						
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	捕獲日数	捕獲名数	捕獲名数	捕獲名数	出漁回数	
Java Tenā																										
Kebako Pukā																										
Keilulus																										
Kena Pukā																										
Sili Tenā																										
Dolu Tenā																										
Horo Tenā																										
Soge Tenā																										
Holo Sapā																										
Teti Heri																										
Kopo Pakar																										
Nara Tenā																										
Bui Pukā																										
Sika Tenā																										
Demo Sapā																										
Boli Sapā																										
Manula Belolo																										
Peraso Sapā																										
Baka Tenā																										
Muko Tenā																										
捕獲総数	4	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1	0	5	0	1	0	0	15	33					
捕獲失敗数	2	6	—	—	—	—	—	9	—	—	—	4	1	—	9	—	2	—	—							
不捕獲日出漁数	3	0	2	1	1	0	1	0	0	2	0	1	3	2	0	2	0	0	0	0	21					
不捕獲日出漁数	—	—	13	12	12	11	11	11	—	13	12	10	—	9	—	13	—	—	4	10						
出漁数	11	8	13	12	12	11	11	11	10	13	12	10	9	5	9	14	13	3	4	10						
計	15	2	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	1	22	47	6	6	1	0	0	53	7	200	33	15	

不稼働プレダン

さらずに抜けたことによる。前述したがその1隻 *DoluTenā* 船ではベテラン漁師 Y.S. Sulaona 氏が銚網に足を絡ませて負傷し、病院で足首から下を切断するという事故が起こった。

その後3月16日には夕方4時に8隻がバレオ出漁し、7隻で1頭を捕獲しているが1隻のみは捕鯨機会がなく終わっている。この時の捕鯨は異例である夕方4時の出漁（バレオ出漁は通常午後3時頃までであり、日没に近い捕鯨は夜間に及ぶ可能性が多く危険なため避けている）であったため夜10時までかかって捕獲している。

3月末から4月末にかけて5回のバレオ出漁があったが、3月23日、4月3日、4月11日と3回連続して捕鯨失敗が続き、4月18日は捕獲機会がなく4月22日は捕獲失敗に終わり5回ともクジラの捕獲はなかった。

その内容を見ると、3月23日は早朝のバレオ出漁で13隻が出漁し、2隻が銚を打ったが銚が抜けて失敗し14時に帰漁している。4月3日は午前中のバレオ出漁で12隻が出漁し、1隻が銚を打ったが銚網が切れて失敗し15時に帰漁している。4月11日は午後中のバレオ出漁で12隻が出漁し、1隻が銚を打ったが銚網が切れて失敗し17時に帰漁している。4月18日は11隻がバレオ出漁したが捕獲機会がなく帰漁、4月22日は早朝バレオ出漁で11隻が出漁し、1隻が銚を打ったが銚網が切れて捕獲失敗している。この5回の捕鯨出漁で捕獲失敗したブレダンは5隻で、捕獲なしを含めた延べ捕鯨出漁隻数は59隻であった。漁期を前にして5頭のマッコウクジラを捕獲できずに失ったことになる。

5月1日のクジラ漁解禁からすぐの4日に早朝バレオ出漁があり、11隻が出漁しクジラに接近したが銚を打つ機会はなかった。6日は早朝のバレオ出漁で10隻全船が協力して1頭を捕獲し、早い時期での漁期初漁となった。14日には3隻がレファ出漁してすぐにクジラに遭遇して銚を打ち、その後バレオ出漁で9隻が出漁し、そのうちの2隻がそれぞれのクジラに銚を打ったが両船とも銚が抜けて失敗している。20日は5隻がレファ出漁してクジラに遭遇し、その後バレオ出漁で7隻が加わり12隻で17時までクジラを追ったが捕獲にはいたらなかった。

6月に入り7日は早朝にレファ出漁したブレダン1隻がクジラ遭遇して銚を打ち、バレオ出漁で9隻が出漁したが、銚が曲がって抜けたために捕獲失敗している。帰漁した午後に再度バレオ出漁があり、9隻が出漁して2頭を捕獲した。内訳は4隻で1頭、2隻で1頭であり、他の3隻は協力して巨鯨を捕獲したが悪天候の中で操業が夜半におよび、やむなく銚網を切って捕獲失敗している。翌8日には5隻がバレオ出漁して2隻で1頭を捕獲したが3隻は捕鯨失敗に終わった。18日は昼に9隻がバレオ出漁し、2隻が銚を打ったが銚が抜けて失敗し16時に帰漁している。

7月は4日に昼からのバレオ出漁で14隻が5頭の雌クジラを捕獲する大漁となった。内訳は2隻で1頭、2隻で1頭、3隻で1頭、3隻で1頭、4隻で1頭と全船が捕鯨に参加して17時に帰漁している。10日は10時に13隻がバレオ出漁し、うち2隻がそれぞれのクジラに銚を打ったが銚が抜けて失敗し17時に帰漁している。続く13日には3隻がバレオ出漁して牡の巨鯨1頭を捕獲した。

一番鉾を打った *BakaTenā* 船の鉾打ち A.K. TufaOnā 氏が海中でクジラに衝突され肋骨骨折の事故で入院したが、現在は回復している。

その後 7 月 27 日早朝にバレオ出漁した 4 隻が捕獲機会なしで帰漁している。8 月 3 日には 10 隻がバレオ出漁したが捕獲機会がなく終わっている。

8 月末以降では 9 月 10 日に 1 頭、12 月 17 日に 2 頭で年間捕獲頭数は 18 頭であるが、それらの詳細データは未収のためここでは述べることができない。8 月末までの捕鯨の延べ出漁隻数は 200 隻、レファ出漁したプレダンの捕獲はなく、これは 2011 年以来 3 年連続している。

当年の捕鯨は、捕獲頭数 15 頭のうち漁期に 5 回の出漁で 10 頭を捕獲した。休漁期の 2 月 3 月において 2 回で 5 頭の捕獲があったが、先述のように 2 月の捕鯨時に事故が起きている。捕鯨事故には様々な要因があるが、若者が動力船漁を選択してプレダンでの漁に参加する機会が激減し、長年継承されてきた捕鯨技術がうまく伝わらずに、プレダン操船技術や捕鯨技術が不足あるいは未熟であることが要因として挙げられる。今後のマッコウクジラを対象としたプレダン捕鯨衰退の重要な懸念要素となりうる。

また、捕鯨参加したプレダン 16 隻のうち 5 隻は捕獲がなく、そのうち 1 隻はクジラ肉分配がなかった。捕鯨出漁して捕獲した割合は約 24%、捕獲失敗を含む捕獲なしの割合は約 76%におよぶ。

当年の顕著な特徴は捕鯨失敗の回数が多いことが挙げられる。20 回の捕鯨出漁で 13 回の捕獲なしを記録し、5 回は鉾を打つ捕獲機会がなかったことによるが、8 回は失敗によりクジラを捕獲しそこなっている。捕鯨失敗したプレダンの総隻数は 21 隻で、その捕鯨に関わった隻数は 102 隻であった。年間捕獲頭数より多い 21 頭のマッコウクジラが捕獲されずに失われた計算になる。先に事故の要因について述べたように、捕鯨失敗の要因もまた捕鯨技術の継承不備による捕鯨技術不足が考えられる。捕鯨時の鉾網切れが失敗の大半を占めていることから、特に捕鯨具である鉾網の管理不足が原因として挙げられる。

5・2 プレダン鉾漁

ここでは表 15 を参照しながら、プレダン鉾漁の詳細を述べてみたい。当年に稼働している 16 隻のうちレファ出漁したプレダンは 6 隻であった。漁期における操業レファ出漁での延べ出漁日数は 53 日で、そのうち延べ漁獲日数は 7 日であった。出漁日数あたりの漁獲日は約 13.2%となる。マッコウクジラを除く漁獲総数は 7 頭（匹）で、漁獲努力量（出漁日数）当りの漁獲量（漁獲数）は約 13.2%となる。

5 月 1 日に 1 隻が儀礼的出漁し、2 週間後の 13 日から本格的に操業が開始された。6 隻が操業し、延べ出漁日数は 47 日、延べ漁獲日数は 6 日で、このうち 1 隻は儀礼的出漁 1 回のみ、1 隻は捕獲なしである。漁獲はオニイトマキエイ 1 匹と小イトマキエイ 1 匹、中型中型のコビレゴンドウ 1 頭とハナゴンドウ 1 頭、マンボウ 1 匹、オサガメ 1 匹の漁獲合計 6 匹（頭）であった。6 月は

3隻がそれぞれ2日操業したが1隻がオニトマキエイ1匹を捕獲したのみである。6月7日に操業した *KebakoPukā* はマッコウクジラに遭遇して銆を打ったが捕獲失敗し、この日で全プレダンがレファ操業を終了した。

主要対象獲物の漁獲は、イトマキエイ類3匹、小型鯨類2頭のみであった。当年のプレダン操業状況と漁獲を見る限り、レファ出漁でのプレダン銆漁は終焉を迎えており、プレダンはマッコウクジラ捕鯨に特化し、パレオ出漁でのパレオ捕鯨に限定されて出漁することが将来的には確実であると考えられる。

5・3 動力船銆漁

ここでは表16を参照して動力船の操業のうち、動力船銆漁について8月末(26日)までの統計に基づいて述べてみたい。2013年現在29隻の船体が存在し、そのうちで稼働している船は24隻である。当年1月から8月末まで銆漁で操業した船は16隻で延べ出漁日数281日、延べ捕獲日数は125日であった。出漁日数あたりの漁獲日は約44.5%となる。マッコウクジラ捕鯨参加を除く漁獲総数は212頭(匹)で、漁獲努力量(出漁日数)当りの漁獲量(漁獲数)は75.4%になる。

主要対象獲物である小型鯨類の年間捕獲頭数148頭のうち、中型のコビレゴンドウ(B)53頭、小型のハシナガイルカ(K)63頭の計116頭であった(表16-1)。小型鯨類についての漁獲努力量(出漁日数)当りの漁獲量(漁獲頭数)は約53%で、全漁獲に占める割合は69.8%にあたる。以下月別に詳細を見ていきたい。

1月は6隻が操業して、延べ出漁日数10日で延べ漁獲日数9日であり、主要対象獲物である小型鯨類はコビレゴンドウの回遊があり、4日に6頭、30日・31日に5頭とサラワクイルカ1頭を捕獲し全12頭の漁獲であった。

2月は4隻が操業して、延べ出漁日数6日で延べ漁獲日数6日であり、主要対象獲物である小型鯨類はハシナガイルカ2頭、サラワクイルカ5頭、ユメゴンドウ4頭の11頭であった。

3月は7隻が操業して、延べ出漁日数13日で延べ漁獲日11日であった。コビレゴンドウの回遊が4日間あり、小型鯨類はコビレゴンドウ13頭であった。続く4月は13隻が操業して、延べ出漁日数64日、延べ漁獲日数23日であり、主要対象獲物である小型鯨類は13頭(B-5/K-8)・サラワクイルカ7頭であった。当月はイトマキエイ類のうちオニトマキエイ10匹、黒イトマキエイ26匹の漁獲があり稀に見る大漁となった。

漁期の始まった5月は12隻が操業して、延べ出漁日数85日延べ漁獲日数30日であり、主要対象獲物である小型鯨類は17頭(B-1/K-16)の他オキゴンドウ1頭、ハナゴンドウ3頭、ユメゴンドウ1頭、オガワコマッコウ1頭、サラワクイルカ4頭と多彩で、全26頭であった。

6月は13隻が操業して、延べ出漁日数78日で延べ漁獲日数32日であり、主要対象獲物である小型鯨類は44頭(B-17/K-27)他ハナゴンドウ1頭、サラワクイルカ1頭を捕獲し、イトマキエイ類

を6匹捕獲している。漁期におけるオキゴンドウ漁獲としては異例の大漁であり、殊に25日には7隻で13頭の多頭数捕獲となった。

7月はマッコウクジラが捕獲回数2回に6頭捕獲されたことで漁師たちが捕鯨と鯨肉分配・干し肉生産に多忙であり、また前述した捕鯨時の負傷事故が影響して操業が少なかった。8隻が操業して、延べ出漁日数8日で延べ漁獲日数9日であり、小型鯨類は14頭(B-6/K-8)他ハナゴンドウ1頭、サラワクイルカ1頭の捕獲であった。

8月は夜間鰯漁が解禁になるため漁の前準備に多忙であり、3日間だけの操業で延べ出漁日数9日延べ漁獲日数5日であり、小型鯨類はハシナガイルカ1頭と数年に一度まれに捕獲されるシャチを1頭捕獲した。他にはジンベエザメ1匹、イタチザメ1匹、イトマキエイ類3匹、マグロ1匹のみの漁獲である。

15日にはシャチの捕獲で遭難事故が発生している。レファ出漁で*SABAT*船が早朝にシャチ9頭の群れに遭遇し、1頭を捕獲した(著者も同船で漁に参加し、捕殺時に左足首に鰹綱が絡まり負傷を負った)。鯨体をラマレラ浜に曳鯨して水揚げした後、新たに3隻がシャチを追って緊急出漁した。そのうちの1隻*BERO*船だけが夕方まで追尾し、捕獲機会を得て鰹を打ち込んだがシャチに曳かれて転覆した。

漁師12名は海に投げ出され、動力船はシャチに曳かれたまま遠方に消え去った。遭難した漁師12名は、竹製の鰹柄7本と船載してある板材4枚、燃料タンク3個などにそれぞれが掴まり、日没時から夜間まで3~4時間かけて泳いで上陸し、全員無事帰還したが動力船はその後の捜索にも関わらず消失した。船の遭難事故は1994年3月10日2隻のブレダン*Kelulus*と*KebakoPukā*を失った事故以来の重大なできごとである。

1週間後の23日に動力船*BERO*とその船外機エンジンの葬儀儀礼が執り行われた。村を代表した4隻の動力船に遭難者を含む48名の漁師が乗り込み、海上を8時間かけて捜索したが遭難船の発見はなく、海での遭難行方不明死者に対する葬儀を踏襲した儀礼が行われた。その儀礼とは、あらかじめ1隻に船載した船材とスクリュープロペラで船をかたち作り、それを船と船外機の象徴に見立てて海上に漂泊させ、しばらくその場を離れたあとに発見し、それを船上に乗せて船と船外機の遺体とみなして村に持ち帰るというものである。その後、それらを船から持って上陸し、動力船の遺体と魂の埋葬儀礼が執り行われた。ちなみに、行方不明の場合は遺体の象徴としてオウムガイ貝殻が用いられる。

筆者はシャチ捕獲から夜間の漁師捜索、その後の動力船捜索、村の協議、船の葬儀儀礼の全てに村人の一員として参加し、村の記録として残した。今回、人命に関わる負傷や犠牲者が出なかったことが奇跡的とも言える大事件であった。漁における不幸な事故での死者は極めて希とはいえ前年に犠牲者が出たが、海難で遺体の上がない行方不明事故は遠く1976年まで遡り、今回の犠牲者は人間ではないが海上での葬儀儀礼は1994年の事故以来の歴史的な出来事であった。

また、捕鯨出漁における、動力船のブレダグ曳航によるマッコウクジラ捕鯨参加は延べ 200 隻あり、15 隻は捕鯨ブレダグ曳航、36 隻は捕鯨応援ブレダグ曳航で延べ 51 隻がクジラの分配を受けている。残る 149 隻は曳航したブレダグに捕鯨がなく終わっている。

5・4 動力船網漁

ここでは表 16 を参照して動力船の操業のうち、動力船網漁について見るが、当年統計は 8 月 26 日までのものである。8 月 5 日に 1 隻が稼働して以来操業した船は 8 隻で、延べ出漁日数 46 日、延べ漁獲日数は 25 日であった。操業日あたりの漁獲日は約 53.4%となる。漁獲総数は 69 匹（頭）で、漁獲努力量（出漁日数）当りの漁獲量（漁獲数）は 150%になる。

主要対象獲物であるイトマキエイ類の年間漁獲数は、大型のオニイトマキエイ 1 匹、中型のイトマキエイ 15 匹、小型のイトマキエイ 3 匹の計 19 匹であった（表 16-2）。イトマキエイ類についての漁獲努力量（出漁日数）当りの漁獲量（漁獲数）は 41.3%である。当年 8 月は 4 日間を残しているとはいえ、銛漁で合計 55 匹の漁獲に対して、網漁では 19 匹にとどまり全漁獲にしめる割合は 27.5%にしかならない。

当年の主な漁獲種の全漁獲にしめる割合を比較すると、硬骨魚類では、カジキ 11 匹、マグロ 27 匹、マンボウ 1 匹で漁獲合計 39 匹になり、約 56.5%になる。サメ類では、ニタリ 3 匹、アオザメ 1 匹、イタチザメ 2 匹で漁獲合計 6 匹になり、約 8.7%になる。小型鯨類はハシナイルカ 5 匹で、約 7.2%にあたる。解禁後 1 ヶ月で漁獲はまだ少ないが 9 月以降の漁獲が期待される。

また、表からも明らかのように、動力船の中でも網漁専業の船、銛漁操業の多い船、5～7 月は銛漁操業で 8 月解禁から 10 月までは網漁操業とバランスよく操業している船とが見られるようになり、今後こうした操業形態の分化が進む可能性もある。

5・5 考察

当年のマッコウクジラ捕鯨は捕獲頭数 18 頭（8 月末までは 15 頭）で、ほぼ平均並みの捕獲となった。当年は前年に続いて重大な捕鯨事故が起きている。また捕鯨失敗が例年と比べて極端に多い。事故の要因同様、捕鯨失敗の要因もまた捕鯨技術の不備、捕鯨具である銛網の管理不足など、伝統的な捕鯨技術の継承がうまくなされていない可能性があり、今後のブレダグ捕鯨継承にいくらかの不安がある。ブレダグ銛漁は延べ 53 日の操業で 6 月初めには終了し、明らかに衰退の傾向がみられる。

8 月末までの動力船の動向は、延べ出漁日数は銛漁 281 日、網漁 46 日の 327 日となった。漁獲総数は銛漁 212 匹（頭）、網漁 69 匹（頭）で合計 281 匹（頭）、漁獲努力量（出漁日数）当りの漁獲量（漁獲数）は銛漁約 75%、網漁約 150%、動力船操業全体では約 86%である。

銛漁では動力船 1 隻と船外機を失う遭難事故が起きた。奇跡的に人命には関わることはなかったが、動力船の手投げ銛による漁の危険性はブレダグ捕鯨と匹敵することがあらためて認識された。網漁に

については今後の漁獲が期待されるが、統計を見ると銆漁でイトマキエイ類の漁獲効率が向上している。

6 動力船別動向と「捕鯨ペア」

これまでの統計をまとめ、各年における動力船別の出漁日数と漁獲の詳細表（表 17）を掲げ、各船における漁の動向の経年変遷を知ることにより、ラマレラの漁と社会の変化を考えたい。ここでは動力船ごとに漁の概要について各年の動向を見ていく。その中で、ラマレラ捕鯨にとって動力船の捕鯨参加による操業と漁獲の統計は欠かすことのできない情報となってきた。そのためマッコウクジラ捕鯨参加についてを中心に検討する。

動力船は通常のレファ操業のほかに、2001年に正式に承認され、2007年に普及してからは、動力船のマッコウクジラ捕鯨参加が重要な操業となっている。これはバレオ捕鯨時においてプレダンを曳航してペアを組んで出漁することで捕鯨に参加するものである。筆者はこれを「捕鯨ペア」と称している。通常一頭のマッコウクジラを数隻のプレダンが協力して捕獲するが、捕鯨が成功した場合には、捕獲プレダンと応援の銆を打って協力した全てのプレダンにクジラが分配され、同時にそれらのプレダンを曳航した動力船全てにもクジラ肉の配分がある。

動力船に分配されるマッコウクジラの部位にはキレ (*kile*) とミマ (*mimā*) がある。キレは輪を意味し、胴体下部の特定部位の皮脂・肉の全てを含んでいる。これは動力船全船で分配される。ミマは顎を意味し、下顎を左右二分割した半分が分配され、これには約 20~25 本ある下顎歯が含まれている。これは、捕鯨したプレダンを曳航してペアを組んだ動力船 1 隻にのみ、燃料費の対価として分配されることになっている。ミマにおいては重要なのは貴重な歯が分配されることである。マッコウクジラの歯は指輪などに加工されるほか、歯自体が域外者に販売されることで貴重な現金収入になっている。

捕鯨ペアの構成について簡略に説明すると、20 隻のプレダンはそれぞれ氏族または氏族分家ごとに所有している。いっぽう動力船は氏族分家またはそのうちの一家族が所有している場合が多い。プレダンと動力船の両方を所有する氏族、氏族分家は、当然その二隻が捕鯨ペアを組む。動力船を所有しないプレダンは氏族、氏族分家あるいは姻族など親族関係にある者の所有する動力船と捕鯨ペアを組み、クジラを分配するシステムである。ただし必ずしも捕鯨ペアが確定しているわけではなく、バレオ捕鯨時に漁可能な動力船に頼み、都合をつけあって曳航してもらうことも多い。

こうした捕鯨ペアによる動力船のマッコウクジラ捕鯨参加を詳細に表した（表 18）。表を参照し、以下 2010 年～2013 年 8 月までの記録を動力船ごとに見ていく。船名後の（ ）内は所有氏族名、【 】内は捕鯨ペアを組むプレダン名と氏族名である。

1・SAFETY (Lela Onā) 【Soge Tenā Tapo Onā】

出漁日数 88 日のすべてが網漁操業であり、各年平均的に操業し漁獲している。全漁獲 81 匹(頭)

のうちイトマキエイ類は53匹と漁獲の65%を占めている。

捕鯨参加は32回あり、曳航プレダン捕獲5回、曳航プレダン捕獲応援8回の計13回で40.6%の捕獲率となる。Soge Tenāとは25回78.1%ペアを組み、捕獲2回、捕獲応援6回の計8回で捕獲率は32%、全クジラ分配の61.5%を得ている。そのほかPraso Sapāと5回出漁して4回、Bui Pukāと2回出漁して1回の分配を受けている。

2・FATO KKELESAR (Beliko Lolo)

出漁日数148日のうち網漁操業が93日63%、全漁獲130匹(頭)のうち62匹(頭)47.7%を漁獲し、イトマキエイ類は38匹で網漁漁獲の61%である。各年平均的に操業し漁獲しているが、2012年は網漁を主体に操業している。銚漁出漁は55日37%で小型鯨類を59頭捕獲し、漁獲68頭(匹)の86.8%を占めている。

捕鯨参加は11回あり2010年に集中している。曳航プレダン捕獲1回、曳航プレダン捕獲応援4回の計5回で捕獲率45.5%である。そのうち主にDemo Sapāと8回72.2%ペアを組み、自船の捕獲はなく、捕獲応援4回で捕獲率は50%、全クジラ分配の80%を得ている。そのほかTeti Heriと2回出漁して1頭を捕獲して分配を得ている。

3・RONI (Lama Kera) [MukoTenā Ata Kei]

出漁日数105日のうち網漁操業が61日で58%、全漁獲144匹(頭)のうち117匹(頭)81%を漁獲し、イトマキエイ類は69匹で網漁漁獲の59%である。網漁、銚漁とも各年平均的に操業しているが銚漁の漁獲は28頭(匹)と多くない。銚漁出漁は44日42%で小型鯨類を19頭捕獲し、漁獲の70.4%を占めている。

捕鯨参加は36回あり、曳航プレダン捕獲7回、曳航プレダン捕獲応援8回の計15回で41.7%の捕獲率となる。MukoTenāとは捕鯨ペア出漁が確立しておりほぼ全回の32回88.9%ペアを組み、捕獲7回、捕獲応援6回の計13回で捕獲率は40.6%、全クジラ分配の86.7%を得ている。そのほかBaka Tenāと2回出漁して1回、Praso Sapāと1回出漁して1回分配を受けている

4・KAKAARI (Tufa Onā) [BakaTenā Tufa Onā]

船小屋にはKOPO PIGERが格納されていたが売却して新造し、2012年から操業している。出漁日数88日のうち網漁操業が30日で34%、全漁獲128匹(頭)のうち29匹(頭)22.7%を漁獲し、イトマキエイ類は11匹で網漁漁獲の38%である。銚漁出漁は50日64%で小型鯨類を87頭捕獲し、漁獲99頭(匹)の87.9%を占めている。各年平均的に操業しているが、銚漁の漁獲が主要なものとなっている。

捕鯨参加は22回あり、曳航プレダン捕獲5回、曳航プレダン捕獲応援2回の計7回で31.8%の捕獲率となる。捕鯨ペア出漁が確立しており同氏族の所有するBakaTenāと全回ペアを組み、全クジラ7頭から分配を得ている。

5・*TALERE LERE* (Eba Onā)

2010年は15日のみ網漁操業し、40匹の漁獲があり小型のイトマキエイ30匹などを漁獲した。捕鯨ペアでは2回*BakaTenā*を曳航し、2回とも捕鯨応援船曳航として分配を受けている。2011年からは稼働していない。

6・*FILANA* (Tana Krofa) [*Teti Heri* Bata Fo]

出漁日数61日のうち網漁操業が23日37.7%、全漁獲40匹(頭)のうち15匹37.5%を漁獲し、イトマキエイ類は7匹で網漁漁獲の58%である。2013年は銜漁を主体に操業している。銜漁出漁は38日62.3%で、小型鯨類は4頭であるがイトマキエイ類20匹を捕獲し、漁獲25頭(匹)の80%を占めている。

捕鯨参加は27回あり、曳航プレダグン捕獲1回、曳航プレダグン捕獲応援9回の計10回で37%の捕獲率となる。*Teti Heri*とは21回77.8%ペアを組み、捕獲1回、捕獲応援5回の計6回で捕獲率は28.6%、全クジラ分配の60%を得ている。そのほか*Boli Sapā*と4回出漁して捕獲応援3回、*Manula Belolo*1回出漁して捕獲応援1回の分配を受けている。

7・*ARNOL 1* (Lama Kera)

*ARNOL 2*を新造したため旧船*ARNOL 1*は売却して現在船体はない。

8・*ARNOL 2* (Lama Kera)

出漁日数90日のうち網漁操業が40日で44.4%、全漁獲95匹(頭)のうち30匹(頭)31.6%を漁獲し、イトマキエイ類は5匹で網漁漁獲のわずか16.7%である。銜漁出漁は50日55.6%で、小型鯨類を51頭捕獲して漁獲65頭の78.5%を占めている。

捕鯨参加は21回あり、曳航プレダグン捕獲2回、曳航プレダグン捕獲応援4回の計6回で28.6%の捕獲率となる。*Praso Sapā*とは6回28.6%ペアを組み、捕獲1回、捕獲応援1回で捕獲率33.3%、全クジラ分配の33%を得ている。そのほか*BakaTenā*と9回出漁して1回、捕獲応援2回で捕獲率33.3%、そのほか*MukoTenā*と2回出漁して1回の分配を受けている。姻族所有の*Praso Sapā*または*BakaTenā*とペアを組む回数が多い。

9・*FUNO FITO* (Lama Kera) [*Manula Belolo* Lama Kera]

出漁日数151日のうち網漁操業が55日36.4%、全漁獲198匹(頭)のうち81匹(頭)40.9%を漁獲し、イトマキエイ類は28匹で網漁漁獲の34.6%である。銜漁出漁は96日63.6%で、小型鯨類は107頭を捕獲し、漁獲117頭の91.5%を占めている。銜漁での漁獲が多いが網漁も毎年操業している。

捕鯨参加は42回あり、曳航プレダグン捕獲5回、曳航プレダグン捕獲応援13回の計18回で42.9%の捕獲率となる。*Manula Belolo*とは捕鯨ペア出漁が確立しており、ほぼ全回の41回97.6%ペアを組み、捕獲5回、捕獲応援12回の計17回で捕獲率は41.5%、全クジラ分配の94%を得ている。そのほか*Nara Tenā*と1回出漁して1回分配を受けている。

10・BERO (Eba Onā)【Praso Sapā Lela Onā】

出漁日数 256 日は動力船で最多である。網漁操業が 56 日 21.9%、全漁獲 342 匹 (頭) のうち 94 匹 (頭) 27.9%を漁獲し、イトマキエイ類は 25 匹で網漁漁獲の 26.6%である。銚漁出漁は 200 日 78.1%で、小型鯨類は 205 頭を捕獲し、漁獲 248 頭 (匹) の 82.7%を占めている。銚漁での小型鯨類ごとにコビレゴンドウの捕獲数は群を抜いている。イトマキエイ類の漁獲も 36 匹と多いが、網漁も毎年操業している。

捕鯨参加は 33 回あり、曳航プレダン捕獲 6 回、曳航プレダン捕獲応援 9 回の計 15 回で 45.5%の捕獲率となる。2012 年以来 Praso Sapā と捕鯨ペア出漁が確立しており、24 回 72.7%ペアを組み、捕獲 3 回、捕獲応援 6 回の計 9 回で捕獲率は 37.5%、全クジラ分配の 60%を得ている。それ以前は Baka Tenā と 8 回捕鯨ペアを組み、捕獲 3 回、捕獲応援 3 回の計 5 回で捕獲率は 62.5%と好漁になっている。

11・SUKA HAMA (Lama Kera)

2012 年に 26 日網漁操業をして 37 匹 (頭) 漁獲のうちイトマキエイ類を 25 匹 64.9%漁獲したが、2013 年に入ってから改修中で 8 月末時点では稼働していない。

12・SABAT (Dasion)【Kopo Paker Ole Onā】

出漁日数 97 日のうち網漁操業が 52 日 53.6%、全漁獲 94 匹 (頭) のうち 43 匹 (頭) 45.7%を漁獲し、イトマキエイ類は 17 匹で網漁漁獲の 39.5%である。銚漁出漁は 45 日 46.4%で、小型鯨類は 37 頭を捕獲し、漁獲 51 頭の 72.5%と多い。

捕鯨参加は 17 回あり、曳航プレダン捕獲はなく、曳航プレダン捕獲応援 5 回で 29.4%の捕獲率となる。2013 年より Kopo Paker と捕鯨ペア出漁が確立しており、14 回 82.4%ペアを組み、捕獲応援 4 回で捕獲率は 28.6%、全クジラ分配の 80%を得ている。そのほか Demo Sapā と 2 回出漁して 1 回分配を受けている。

13・ARA JATI (Lama Kera)【Nara Tenā Lama Kera】

出漁日数 176 日のうち網漁操業が 64 日 36.4%、全漁獲 196 匹 (頭) のうち 74 匹 37.8%を漁獲し、イトマキエイ類は 34 匹で網漁漁獲の 45.9%である。銚漁出漁は 112 日 63.6%で、小型鯨類は 97 頭を捕獲し、漁獲 122 頭の 79.5%を占めている。銚漁での漁獲が多いが網漁も各年操業している。

捕鯨参加は 20 回あり、曳航プレダン捕獲 3 回、曳航プレダン捕獲応援 5 回の計 8 回で 40%の捕獲率となる。Nara Tenā とは 12 回とペアを組み、1 回は捕獲、捕獲応援 2 回で捕獲率は 25%、全クジラ分配の 37.5%を得ている。また、Boli Sapā と 3 回出漁して 1 回捕獲し、それ以外にも多くのプレダンを曳航して Baka Tenā、Praso Sapā、Soge Tenā、Teti Heri からそれぞれ 1 回ずつの分配を得ている。

14・DUA KEMBER (Hari Onā)【Boli Sapā Hari Onā】

2010年、2011年に網漁操業を24回で小型イトマキエイ10匹をふくむ18匹(頭)の漁獲があった。2012年に *Teti Heri* を曳航して1回の捕鯨参加があったが捕獲はなかった。現在はほとんど稼働していない。

15・KOPO LERE (Tapo Onā)

出漁日数157日のうち網漁操業が115日73.2%、全漁獲175匹(頭)のうち161匹92%を漁獲し、イトマキエイ類は54匹で網漁漁獲の33.5%である。銛漁出漁は42日26.8%で、小型鯨類は8頭を捕獲している。やや網漁に特化して操業している。

捕鯨ペアを組むプレダンはないが、まれに捕鯨参加した4回のうちで捕獲はなかった。

16・KANIBAL (Beliko Lolo) [*Demo Sapā* Beliko Lolo]

出漁日数97日のうち網漁操業が89日91.8%、全漁獲95匹(頭)のうち90匹94.7%を漁獲し、イトマキエイ類は37匹で網漁漁獲の41.1%である。銛漁出漁はわずか8日で5匹(頭)の漁獲である。捕鯨参加以外はおもに網漁で操業している。

捕鯨参加は11回あり、曳航プレダン捕獲2回、曳航プレダン捕獲応援3回の計5回で45.5%の捕獲率となる。*Demo Sapā* 2回ペアを組み、捕獲1回、捕獲応援1回で捕獲率は40%、分配の40%を得ている。そのほか *Teti Heri*、*Soge Tenā*、*Muko Tenā* と捕鯨ペアを組みそれぞれ1回ずつ分配を受けている。

17・KOLOPO (Lama Nifa)

出漁日数219日のうち網漁操業が168日76.7%、全漁獲181匹(頭)のうち149匹(頭)82.3%を漁獲し、イトマキエイ類は57匹で網漁漁獲の38.3%である。銛漁出漁は51日23.3%で、小型鯨類は26頭を捕獲し、漁獲32頭の%を占めている。やや網漁に特化して操業している。

捕鯨参加は19回あり、曳航プレダン捕獲1回、曳航プレダン捕獲応援5回の計6回で31.6%の捕獲率となる。*Nara Tenā* とは7回36.8%ペアを組み、捕獲1回、捕獲応援2回の計3回で捕獲率は42.9%、全クジラ分配の50%を得ている。そのほかと *Demo Sapā* と9回47.4%ペアを組み捕獲応援2回、*Soge Tenā* からは1回分配を受けている。

18・ILE LODO (Tapo Onā)

本来は同氏族所有の *Soge Tenā* と捕鯨ペアを組むが2010年以来稼働していない。

19・ANAABANG (Bata Onā) [*Horo Tenā* Bata Onā]

マッコウクジラ捕鯨参加以外はほとんど操業していない。4年間の出漁日数11日で9匹(頭)の漁獲のみである。

捕鯨参加は27回あり、捕鯨ペア出漁が確立している *Horo Tenā* とは全回ペアを組み、捕獲4回、捕獲応援6回の計10回で捕獲率は37%、クジラ分配の100%を得ている。

20・FRANS (Kedang)

2012年に4番船小屋に格納されていた *KOPO PIGER* を買取り、20番の船小屋に移動して船

名変更し（ただし *FRANS* は仮の船名）操業した。同年に 27 日間の網漁で、おもにイトマキエイ類 23 匹の漁獲があった。捕鯨ペアを組むプレダンはない。

21・*FELMINA* (Budi Onā) [*Kelulus* Budi Onā]

出漁日数 171 日のうち網漁操業が 54 日 31.6%、全漁獲 219 匹（頭）のうち 92 匹（頭）42% を漁獲し、イトマキエイ類は 27 匹で網漁漁獲の 29.3% である。銛漁出漁は 117 日 68.4% で、小型鯨類は 95 頭を捕獲し、漁獲 127 頭の 74.8% を占めている。銛漁操業は活発で漁獲が多いが網漁も各年操業している。

捕鯨参加は 32 回あり、曳航プレダン捕獲 5 回、曳航プレダン捕獲応援 7 回の計 12 回で 37.5% の捕獲率となる。*Kelulus* とは捕鯨ペア出漁が確立しており、ほぼ全回の 29 回 90.6% ペアを組み、捕獲 5 回、捕獲応援 6 回の計 11 回で捕獲率は 37.9%、全クジラ分配の 91.7% を得ている。そのほか *Teti Heri* と 1 回出漁して 1 回分配を受けている。

22・*SARDILES* (Bata Onā) [*Kebako Pukā* Bata Onā]

網漁専門に操業している。出漁日数 178 日のうち網漁操業が 177 日で 303 匹（頭）のすべてを漁獲し、イトマキエイ類は 110 匹で漁獲の 36.3% である。カジキ・マグロ類の漁獲も多い。

捕鯨参加は 18 回あり、捕獲はなく曳航プレダン捕獲応援 4 回で 22.2% の捕獲率となる。2012 年より *Kebako Pukā* と捕鯨ペア出漁が確立しており、ほぼ全回の 17 回 94% ペアを組み、捕獲応援 3 回で捕獲率は 17.6%、全クジラ分配の 75% を得ている。そのほか *Teti Heri* と 1 回出漁して捕獲応援を 1 回している。

23・*LUSI* (Bedi Onā) [*Kena Pukā* Budi Onā]

出漁日数 48 日のうち網漁操業が 32 日 66.7%、全漁獲 47 匹（頭）のうち 30 匹 63.8% を漁獲し、イトマキエイ類は 22 匹で網漁漁獲の 73.3% である。銛漁出漁は 16 日 33.3% で、17 頭のうち小型鯨類は 16 頭を捕獲している。おもにマッコウクジラ捕鯨参加での操業である。

捕鯨参加は 28 回あり、曳航プレダン捕獲 1 回、曳航プレダン捕獲応援 10 回の計 11 回で 39.3% の捕獲率となる。*Kena Pukā* とは捕鯨ペア出漁が確立しており、ほぼ全回の 27 回ペアを組み、捕鯨に関わった 11 回のすべてでクジラ分配を得ている。

24・*PICES* 1 (Bata Onā)

現在は稼働していない。

25・*TRIMONAS* (Sula Onā) [*DoluTenā* Sula Onā]

網漁専門で操業している。出漁日数 173 日のうち網漁操業が 166 日 96%、全漁獲 260 匹（頭）のうち 258 匹（頭）を漁獲し、イトマキエイ類は 114 匹で網漁漁獲の 44.2% である。銛漁出漁は 7 日のみとなっている。

捕鯨参加は 33 回あり、曳航プレダン捕獲 4 回、曳航プレダン捕獲応援 5 回の計 9 回で 27.3% の捕獲率となる。*DoluTenā* とは捕鯨ペア出漁が確立しており、ほぼ全回の 32 回ペアを組み、

表18 動力船マッコウクジラ捕鯨参加詳細

動力船名 所属国番号 所属船名	捕鯨参加回数・捕鯨結果		捕鯨参加詳細																
	年	出漁回数	出漁回数 A	出漁回数 B	出漁回数 C	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
SAFETY Lela Onā Tapo Onā 船長	2010	7	3	2	2	PS A	PS C	PS A	PS B	PS C	BP A	BP C	PS A	PS B	PS C	PS A	PS B	PS C	PS A
	2011	6	1	3	2	SGT C	SGT B	SGT A	SGT C	SGT B	SGT A	SGT C	SGT B	SGT A	SGT C	SGT B	SGT A	SGT C	SGT B
	2012	5	0	0	5	SGT C	SGT B	SGT A	SGT C	SGT B	SGT A	SGT C	SGT B	SGT A	SGT C	SGT B	SGT A	SGT C	SGT B
	2013	14	1	3	10	SGT B	SGT A	SGT C	SGT B	SGT A	SGT C	SGT B	SGT A	SGT C	SGT B	SGT A	SGT C	SGT B	SGT A
	小計	32	5	8	19	SGT A	SGT B	SGT C	SGT A	SGT B	SGT C	BP A	BP B	BP C	BP A	BP B	BP C	BP A	BP B
計	32	13	13	19	25	2	6	17	5	2	2	1	2	1	0	1	0	1	0
FATO KELESAR Beilko Lolo (Demo Sapa) Beilko Lolo	2010	9	1	4	4	DS B	DS C	DS A	DS B	DS C	DS A	DS B	DS C	DS A	DS B	DS C	DS A	DS B	DS C
2011	1	0	0	1	1	C													
2012	0	0	0	0	0	MT C													
2013	1	0	0	1	1	C													
小計	11	1	4	6	6	DS A	DS B	DS C	DS A	DS B	DS C	DS A	DS B	DS C	DS A	DS B	DS C	DS A	DS B
計	11	5	5	6	6	8	0	4	4	2	1	0	1	1	0	0	1	0	0
RONI Lema Kera	2010	8	4	2	2	MT B	MT C	MT A	MT B	MT C	MT A	MT B	MT C	MT A	MT B	MT C	MT A	MT B	MT C
2011	8	1	3	4	4	MT C	MT B	MT A	MT C	MT B	MT A	MT C	MT B	MT A	MT C	MT B	MT A	MT C	MT B
2012	7	1	2	4	4	MT C	MT B	MT A	MT C	MT B	MT A	MT C	MT B	MT A	MT C	MT B	MT A	MT C	MT B
2013	13	1	1	11	11	MT C	MT B	MT A	MT C	MT B	MT A	MT C	MT B	MT A	MT C	MT B	MT A	MT C	MT B
小計	36	7	8	21	21	MT A	MT B	MT C	MT A	MT B	MT C	MT A	MT B	MT C	MT A	MT B	MT C	MT A	MT B
計	36	15	15	21	21	32	7	6	19	2	0	1	1	1	0	1	0	1	0
KAKA ARI Tufa Onā Baka Tenā / BT Tufa Onā 氏長	2010																		
2011																			
2012	5	1	0	4	4	BT C	BT A	BT C	BT B	BT A	BT C	BT B	BT A	BT C	BT B	BT A	BT C	BT B	BT A
2013	17	4	2	11	11	BT A	BT B	BT C	BT A	BT B	BT C	BT A	BT B	BT C	BT A	BT B	BT C	BT A	BT B
小計	22	5	2	15	15	BT A	BT B	BT C	BT A	BT B	BT C	BT A	BT B	BT C	BT A	BT B	BT C	BT A	BT B
計	22	7	7	15	15	22	5	2	15	5	2	15	5	2	15	5	2	15	5

勤労組合名 所属在籍番号 所属ベアブレンダ名/順号 所有者氏名 団体	年	補綴参加出満回数・補綴結果													補綴参加詳細												
		出満回数	変綴ブレンダ ン補綴 A	変綴ブレンダ ン補綴 B	変綴ブレンダ ン補綴 C	変綴ブレンダ ン補綴なし	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14							
BERO Eba Onã 氏族 Praso Sapã / PS Lela Onã 氏族 船体流失	2010	7	3	2	2		BT	BT	BT	BT	TH	BT	BT														
	2011	6	2	3	1		B	C	A	C	A	B	A														
	2012	6	0	2	4		PS	PS	PS	PS	PS	PS	PS														
	2013	14	1	2	11		PS	PS	PS	PS	PS	PS	PS	TH	PS	PS	PS	PS	PS								
	小計	33	6	9	18		PS	A	B	C	BT	A	B	C	TH	A	B	C									
	計	33	15	18	18		24	3	6	15	8	3	2	3	1	0	0	1									
SABAT Desion Kopo Baker / KOP Ole Onã 氏族	2010	1	0	0	1		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13								
	2011	0	0	0	0		BS																				
	2012	3	0	1	2			DS	DS	KOP																	
	2013	13	0	4	9		KOP	KOP	KOP	KOP	KOP	KOP	KOP	KOP	KOP	KOP	KOP	KOP	KOP								
	小計	17	0	5	12		KOP	A	B	C	DS	A	B	C	BS	A	B	C									
	計	17	5	12	12		14	0	4	10	2	0	1	1	1	0	0	1									
ARA JATI Lama Kera 氏族 Nara Tenã / NT Lama Kera 氏族	2010	3	0	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13								
	2011	5	1	1	3		NT	NT	SGT																		
	2012	0	0	0	0		C	B	B																		
	2013	12	2	2	8		NT	NT	PS	BT	DS																
	小計	20	3	5	12		C	C	C	B	A	C															
	計	20	8	12	12		12	1	2	9	3	1	0	2	1	1	1	1	1								
DUA KEMBAR Heri Onã 氏族 Boli Sapã / BS Heri Onã 氏族	2010	0	0	0	0		1																				
	2011	0	0	0	0																						
	2012	1	0	0	1		TH																				
	2013	0	0	0	0		C																				
	小計	1	0	0	1		TH	A	B	C																	
	計	1	0	0	1		1	0	0	1																	

動力船名 所有者氏名 捕鯨ペナフレダンの名/船号 所有氏名	年	捕鯨参加回数・捕鯨結果															
		出漁回数	馬船プレダ ン捕鯨 A	馬船プレダ ン捕鯨 B	馬船プレダ ン捕鯨 C	馬船プレダ ン捕鯨 なし	捕鯨参加詳細										
FELMINA Budi Onā Kelulus /KL Budi Onā 氏家分家	2010	10	3	2	5		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	馬船したプレダンの捕鯨結果 (A/B/C)
	2011	6	1	2	3		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	馬船したプレダンの捕鯨結果 (A/B/C)
	2012	6	0	1	5		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	馬船したプレダンの捕鯨結果 (A/B/C)
	2013	10	1	2	7		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	馬船したプレダンの捕鯨結果 (A/B/C)
	小計	32	5	7	20		4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	馬船したプレダンの捕鯨結果 (A/B/C)
	計	32	12	12	20		17	17	18	19	20	21	22	23	24	25	馬船したプレダンの捕鯨結果 (A/B/C)
SARDILES Beta Onā Kebako Pukā /KB Beta Onā 氏家	2010	1	0	1	0		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	馬船したプレダンの捕鯨結果 (A/B/C)
	2011	0	0	0	0		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	馬船したプレダンの捕鯨結果 (A/B/C)
	2012	4	0	0	4		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	馬船したプレダンの捕鯨結果 (A/B/C)
	2013	13	0	3	10		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	馬船したプレダンの捕鯨結果 (A/B/C)
	小計	18	0	4	14		4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	馬船したプレダンの捕鯨結果 (A/B/C)
	計	18	4	7	14		17	17	18	19	20	21	22	23	24	25	馬船したプレダンの捕鯨結果 (A/B/C)
LUSI Budi Onā Kena Pukā /KP Budi Onā 氏家分家	2010	10	1	4	5		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	馬船したプレダンの捕鯨結果 (A/B/C)
	2011	5	0	2	3		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	馬船したプレダンの捕鯨結果 (A/B/C)
	2012	7	0	2	5		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	馬船したプレダンの捕鯨結果 (A/B/C)
	2013	6	0	2	4		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	馬船したプレダンの捕鯨結果 (A/B/C)
	小計	28	1	10	17		4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	馬船したプレダンの捕鯨結果 (A/B/C)
	計	28	11	11	17		17	17	18	19	20	21	22	23	24	25	馬船したプレダンの捕鯨結果 (A/B/C)
TRI MONAS Sula Onā Dolu Tenā /DT Sula Onā 氏家分家	2010	7	1	1	5		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	馬船したプレダンの捕鯨結果 (A/B/C)
	2011	6	2	2	2		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	馬船したプレダンの捕鯨結果 (A/B/C)
	2012	6	0	1	5		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	馬船したプレダンの捕鯨結果 (A/B/C)
	2013	14	1	1	12		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	馬船したプレダンの捕鯨結果 (A/B/C)
	小計	33	4	5	24		4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	馬船したプレダンの捕鯨結果 (A/B/C)
	計	33	9	9	24		32	32	33	34	35	36	37	38	39	40	馬船したプレダンの捕鯨結果 (A/B/C)

動力船名 捕鯨ペアプレダンの名/船号 所有氏名	捕鯨参加回数・捕鯨結果		捕鯨参加詳細												
	年	出漁回数	曳航プレダ ン捕鯨 A	曳航プレダ ン捕鯨 B	曳航プレダ ン捕鯨なし C	1	2	3	4	5	6	7	8	曳航したプレダンの捕鯨結果(A/B/C)	
JULIANA Bata Onā	2010	8	1	2	5	KB	KB	KB	KB	KB	SKT	SKT	SKT		
	2011	6	1	2	3	SKT	SKT	KB	KB	SKT	SKT				
Sika Tenā / SKT Sula Onā 網漁	2012	3	0	1	2	SKT	SKT	SKT							
	2013	4	0	0	4	SKT	SKT	SKT	SKT						
故障	小計	21	2	5	14	SKT	A	B	C	KB	A	B	C		
	計	21	7	7	14	14	2	1	11	7	0	4	3		

捕獲 3 回、捕獲応援 5 回で捕獲率は 25%、全クジラ分配の 88.9%を得ている。そのほか *Soge Tenā* と 1 回出漁して 1 回捕獲して分配を受けている。

26・JULIANA (Bata Onā) 【*Sika Tenā* Sula Onā】

出漁日数 129 日のうち網漁操業が 37 日 28.7%、全漁獲 192 匹(頭)のうち 63 匹(頭) 32.8%を漁獲し、イトマキエイ類は 11 匹で網漁漁獲の 17.5%である。銚漁出漁は 92 日 71.3%で、小型鯨類は 113 頭を捕獲し、漁獲 129 頭の 87.6%を占めている。銚漁での漁獲が多いが網漁もわずかではあるが各年操業している。

捕鯨参加は 21 回あり、曳航プレダ捕獲 2 回、曳航プレダ捕獲応援 5 回の計 7 回で 33.3%の捕獲率となる。*Sika Tenā* とは捕鯨ペア出漁が確立しており、14 回 66.7%ペアを組み、捕獲 2 回、捕獲応援 1 回の計 3 回で捕獲率は 21.4%、全クジラ分配の 43%を得ている。ただし、*Sika Tenā* が稼働していない場合には同氏族所有のプレダ *Kebako Pukā* と捕鯨ペアを組むことも多い。7 回出漁して 4 回の捕獲応援をし、捕獲率は 57%、全クジラ分配の 57%を受けている。

27・BADAH GOLE ILE (Tapo Onā)

おもに網漁操業をしている。出漁日数 27 日のうち網漁操業が 22 日で 31 匹漁獲し、イトマキエイ類は 22 匹で漁獲の 71%である。銚漁出漁はわずか 5 日で、捕鯨ペアを組むプレダはない。

28・DOFIN (Bata Onā)

2012 年より網漁専門で操業している。38 日出漁して 54 匹(頭)を漁獲している。イトマキエイ類は 38 匹で漁獲の 70%である。捕鯨ペアを組むプレダはない。

29・TITE HENA (Bata Onā)

2010 年以降はあまり活発ではなく、2013 年は稼働していない。捕鯨ペアを組むプレダはない。

以上、動力船別に操業と漁獲、そしてマッコウクジラ捕鯨

参加の実態を見てきた。29 隻の動力船のうち 21 隻がマッコウクジラ捕鯨に参加し、19 隻はある程度のクジラを分配されていることが分かる。ブレダンの成員のみならず、小さな操業グループではあるが、ともするとブレダン鰯漁よりもはるかに漁獲効率の良い動力船成員にもクジラが分配されていくシステムを作り、協力することで捕鯨をおこなっている。このことから、マッコウクジラ捕鯨は村全体にとって最も重要な生業と考えられていることが見て取れる。

7 考察

マッコウクジラ捕鯨を分析すると、バレオ捕鯨により少ない捕獲機会に効率よく捕獲している現状が明確になった。バレオ捕鯨と多数捕獲がこれからの捕鯨の特徴となるであろう。しかしながら、大きな群の回遊があった僅かな時期において捕鯨機会を逸すると不漁に直結する、昔ながらの偶然に左右される危うい捕鯨であることもいまだ現実である。

同時に、捕鯨事故や捕鯨失敗の増加傾向から、ブレダン造船、捕鯨具製作、操船術、捕鯨法など総合的な捕鯨技術の継承も今後の課題として浮上してこよう。

動力船鰯漁に加えて動力船網漁がこれからの漁法の主流になると思われるが、2012 年より村人自身が漁獲効率の良い網漁の解禁を 8 月からと自主規制し、資源保護と同時に伝統漁法の鰯漁保護を打ち出している。経済効率優先の現代社会にあつては、なによりも共同体の維持と伝統を優先して生きてきた捕鯨民が培ってきた素晴らしい知恵である。

また、動力船網漁導入によりイトマキエイ類の漁獲効率が上がリ、カジキ、マグロやサメ類の資源が開発され、混獲に近い魚種（サバ科の数種）が生計の足しとしてもたらされることも 2010 年以降の新たな展開である。動力船網漁と動力船鰯漁そしてバレオ捕鯨の連携が今後よりよい形で新たに確立すれば、ラマレラ村人の暮らしは今後豊かで余裕のあるものとなるに違いない。4 年間の調査で明らかになった変化を考察すると次のようにまとめることができる。

(1) マッコウクジラのブレダン捕鯨およびブレダン鰯漁

- 1 ブレダンのレファ操業、ブレダン鰯漁は 2012 年を持ってほぼ終焉を迎えた。
- 2 その結果、ブレダン捕鯨はマッコウクジラの潮吹きを目視したときに緊急出漁させるバレオ捕鯨において操業される、捕鯨船として操業することになりつつある。
- 3 動力船がブレダンとペアを組む動力船参加式のバレオ捕鯨確立により、少ない捕獲機会に動力船とブレダンが一斉に出漁して多数捕獲することが顕著になった。
- 4 ブレダンの操業機会がほぼなくなり、ブレダン捕鯨の技術継承が不十分で捕鯨時の人身事故（2 年間で 3 人）が続き、また捕鯨失敗が激増した。

(2) 動力船鰯漁および動力船網漁

- 1 2012 年から漁解禁の 5 月から 7 月までは鰯漁操業のみとし、夜間流し網漁の解禁は 8 月か

らと決定した。その理由として夜間流し網漁の漁獲効率が良く、銆漁の衰退を招く恐れがあることから伝統的な銆漁の保護を目的としたものである。また資源保護の観点から自主的資源管理をしている。これはマッコウクジラ捕鯨で多くの禁忌を設けて捕獲制限している事実と同様、村の糧である海は慣習法に準拠して村の掟を設け、共同体で守っていくという思想から来ている。

- 2 操業は銆漁専門と網漁専門に特化する傾向が顕著になりつつある。
- 3 操業は年ごとの出漁日数が変化して未だ安定した操業にはなっていない。
- 4 操業不安定の要因は各漁船家族内の事情、船外機の故障、燃料費の捻出などの多くの要素がかかわっている。
- 5 動力船銆漁での主要獲物は小型鯨類であり、特に漁期以外に捕獲する比較的大型鯨種コビレゴンドウの重要性が増している。
- 6 動力船網漁での主要獲物は三種類のイトマキエイであり、ことに小型イトマキエイの漁獲量は銆漁と比較して非常に高い。
- 7 漁獲効率の良い夜間流し網漁と伝統漁法の銆漁との操業バランスは今後の課題として挙げられる。
- 8 各船の漁獲高の差異が大きく、将来的に格差を生み出すことも考えられるが、全体協議により、新たな規範をつくる可能性もまた大きい。

おわりに

本稿では2010年～2013年の4年間にわたる統計をもとに、捕鯨と漁の動向と変化を見てきた。これまでの研究から、ラマレラの捕鯨および銆漁は不確定要素が多いことが特徴として挙げられる。マッコウクジラの回遊、イトマキエイ類の生態と漁場などに年ごとの変数が多く、漁法は確立しているが豊漁・不漁は年毎にさまざまな様相を呈している。また、新たな漁法である網漁においても、漁具は質素なものであり、好漁が約束される確実な漁場が確定しているわけではない。

ブレダン銆漁から動力船銆漁、そして2009年以降は銆漁と動力船網漁との併存というかたちで漁業形態が移行してきた。4年間におけるブレダン操業状況と漁獲を見る限り、レファ出漁でのブレダン銆漁はほぼ終焉を迎えており、ブレダンはマッコウクジラ捕鯨に特化し、パレオ出漁でのパレオ捕鯨に限定されて操業することが将来的には確実であろう。ブレダン銆漁は衰退してきたが、マッコウクジラの出現を待ちながら銆漁をする漁法は伝統的な漁法であり、動力船銆漁になってもある意味では変化していないといえる。

筆者自身の4年間における捕鯨体験から伺えることは、ラマレラ村の漁と社会がマッコウクジラ捕鯨を中心として組み立てられているという事実である。それは、クジラの大きさだけに由来するので

はなく、クジラの分配法のみが他の獲物とは異なって食料が村全体にいきわたるシステムになっており、現在も継続しているからである。動力船網漁による豊漁は村を潤すが、マッコウクジラのように誰もが配分を得られることはない事実は、今後の社会変化を見ていく上で重要である。

これまで 20 年間にわたって捕鯨、漁と社会の変化を見てきて、変容を経ながらもラマレラ共同体にとって生存の根幹である山の民との共生関係を継続させるためにマッコウクジラを獲りつづけ、ラマレラ捕鯨とその文化が近い将来に消滅することはないと考えている。

今後の課題として、ラマレラ捕鯨文化の重要な要素である漁獲の分配において、プレダン捕鯨、銛漁のみならず動力船銛漁、網漁についても追跡して調査する必要がある。また、分配ののちの域内流通にいたる過程、物々交換による山民との共生関係について、ことにラマレラ女性の行商の変化についても大きなテーマとして設定でき、調査を継続している。

更に、研究成果を社会還元することも考え、具体的にはおおよそ以下の展望を持っている。ラマレラ村民によって蓄積されていく捕鯨データベースはラマレラ捕鯨史のみならず、人類の捕鯨史および人間とクジラの関わりを知る上での「人類の文化遺産」ともいえる貴重な資料と成り得る。将来的にはラマレラ村に捕鯨文化博物館を創り、ラマレラ捕鯨文化に関わる物質文化資料を展示すると同時に、筆者たちの蓄積した研究成果である写真・映像資料と共にデータ資料を保管することも可能だと考えている。今後も調査を継続することにより、ラマレラ捕鯨文化と社会の変化の動向を、今まで通りラマレラ村人と共に見つめていきたい。

(謝辞)

本研究の一部は 2011 年度トヨタ財団研究助成プログラム「インドネシア、ラマレラ村における伝統捕鯨文化の変容」(代表 江上幹幸;平成 23 年~25 年) および、沖縄国際大学特別研究費「インドネシア、ラマレラ村における伝統捕鯨文化の変容」(代表 江上幹幸;平成 23 年度~25 年度)の助成補助に負っています。あらためて感謝の意を表します。

引用参考文献

江上幹幸

2000a 「インドネシア、ラマレラ村における生存捕鯨—その食文化と流通—」『社会文化研究』12(1) : 91-123 沖縄国際大学

2000b 「インドネシア、ラマレラ村の経済システム—物々交換による共生社会—」『高宮廣衛先生古稀記念論集 琉球・東アジアの人と文化』下 : 325-341 高宮廣衛先生古稀記念論集刊行会

2007 「インドネシア・ラマレラ村の捕鯨と近代化」『文化遺産の世界』24 号 :14-17

国際航業株式会社文化事業部

江上幹幸・小島曠太郎

2010「インドネシア、ラマレラ村 16 年間の捕鯨記録と分析（Ⅰ）」『社会文化研究』

12(1)：1-32 沖縄国際大学

江上幹幸・小島曠太郎

2011「インドネシア、ラマレラ村 16 年間の捕鯨記録と分析（Ⅱ）」『社会文化研究』

12(2)：65-94 沖縄国際大学

江上幹幸・小島曠太郎

2012 「インドネシア・ラマレラの伝統捕鯨文化と社会変化」岸上信啓編著『捕鯨の文化人類学』：

102-121 成山堂書店

小島曠太郎

1997『クジラと少年の海』理論社

小島曠太郎・江上幹幸

1999『クジラと生きる』中公新書

BPS:Badan Pusat Statistik Kabupaten Lembata

2009 “Lembata dalam angka 2009 ”

Barnes, R. H.

1996 *Sea Hunters of Indonesia:Fishers and Weavers of Lamalera.*

Oxford: Clarendon Press

Egami ,Tomoko and Kotaro Kojima

2013 Traditional Whaling Culture and Societal Change in Lamalera, Indonesia:

An Analysis of the Catch Record of Whaling 1994 – 2010.

In N. Kisigami, H. Hamaguti, J.M. Savelle (eds.) *Anthropological Studies of Whaling*

(Senri Ethnological Studies 84), pp155-176. Osaka: National Museum of Ethnology.

The current status of whaling and fishery: the statistics and analysis of production since 2010 through 2013

Tomoko EGAMI
Koutaro KOJIMA

Abstract

Lamalera is a village of whalers located on the southern coast of Lembata island in East Indonesia. The villagers hunt sperm whales, devil rays and other fisheries products from *peledang*, a wooden sail boat, using hand-thrown harpoons. They maintain an economic system of barter by exchanging those fisheries products for agricultural products from the interior regions of Lembata. The whaling culture of Lamalera thus stands on a co-reliance between agricultural workers from the interior and traditional whalers living on the coast.

The author researches the whaling culture of Lamalera since 1994 and the study of acculturation has been included within the entire research. The drift net fishing during night time using power boat distributed since 2010. Whaling method cannot avoid the change if the modernization of fishery proceeds. The yearly observation on the process and the effect of modernization is needed. This paper shows the changes in fishery by reporting the detailed statistic data of whaling and fishery. And then the current whaling culture of Lamalera is critically reviewed.